貝塚市埋蔵文化財調査報告　第71集

貝塚市遺跡群発掘調査概要29

2007. 3. 30

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北は岸和田市、南は熊取町・泉佐野市と隣接しています。西は大阪湾に面し、東に和泉葛城山を望む風光明媚な地であります。

今日、私たちを取り巻く社会や自然の環境は、急速な開発で大きく変貌を遂げつつあります。こうした開発が進む一方で、先人によって育まれた文化の痕跡である埋蔵文化財が失われています。このような埋蔵文化財を発掘調査によって文化の痕跡を記録することにより、その歴史を明らかにする一方で、私たちの日常生活が先人によって培われた文化の賜物であることを認識し、これからの発展の礎とするために未来へ引き継いでいく必要があります。

本書は、平成18年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成19年３月30日

貝塚市教育委員会
教育長　山　本　太三郎

例　　言

1．本書は貝塚市教育委員会が平成18年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。なお、遺物整理の都合から一部、平成17年度調査についても掲載している。

2．発掘調査は平成18年４月１日より実施し、平成19年３月30日に終了した。調査は三浦基、木嶋崇晴が行った。

3．本書の執筆・編集は三浦基、木嶋崇晴が行った。

4．出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。

5．本書の第３章においては、貝塚市教育委員会が平成元年および平成２年に国庫補助金を受けて実施した埋蔵文化財緊急発掘調査について、概要報告書に一部掲載できなかった調査を掲載している。

凡　　例

1．図６～21の調査図面については、調査地位置図は縮尺１/5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。

2．本書で用いた標高は、東京湾平均海水面（T.P.）を基準とした。

3．本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版　標準土色帳』1990年度版を用いた。

4．貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目　　次

はじめに

例　言、凡　例

目　次（本文目次、挿図目次、図版目次、表目次）

第１章　平成18年発掘調査の概要 …… 1

第２章　調査の結果 …… 7

１．久保遺跡　2005 - 56区 …… 7

２．土生遺跡　2006 - 21区 …… 7

３．津田遺跡　2006 - 34区 …… 8

４．加治・神前・畠中遺跡　2006 - 50区 …… 9

５．沢城跡　2005 - 66区、2006 - 40区 …… 9

６．沢西遺跡　2006 - 23区 …… 12

７．澱池遺跡　2005 - 59区 …… 13

８．半田遺跡　2006 - 37区 …… 13

９．新井・鳥羽北遺跡　2006 - 19区 …… 15

10．石才南遺跡　2006 - 27区、2006 - 57区 …… 15

11．地蔵堂廃寺　2006 - 25区 …… 18

12．地蔵堂遺跡　2006 - 45区 …… 18

13．堤西浦遺跡　2005 - 62区 …… 18

14．三ケ山西遺跡　2006 - 14区 …… 21

15．水間二ノ戸遺跡　2006 - ６区、2006 - 35区、2005 - 61区 …… 21

第３章　平成元年・平成２年の調査 …… 24

挿図目次

図１　貝塚市遺跡分布図
図２　調査地位置図
図３　調査地位置図
図４　調査地位置図
図５　調査地位置図
図６　2005－56区
図７　2006－21区
図８　2006－34区
図９　2006－50区
図10　2005－66区
図11　2006－40区
図12　2006－23区
図13　2005－59区
図14　2006－37区
図15　2006－19区
図16　2006－27区・2006－57区
図17　2006－25区・2006－45区
図18　2005－62区
図19　2006－14区
図20　2006－６区・2006－35区
図21　2005－61区
図22　調査地位置図　（平成元年・２年）
図23　調査地位置図　（平成元年・２年）
図24　調査地位置図　（平成元年・２年）

図版目次

図版１　久保遺跡（2005－56区）
土生遺跡（2006－21区）
1. 2005－56区　完掘状況　（西より）
2. 2006－21区　調査区１完掘状況　（東より）
図版２　津田遺跡（2006－34区）
加治・神前・畠中遺跡（2006－50区）
1. 2006－34区　完掘状況　（北より）
2. 2006－50区　完掘状況　（北より）
図版３　沢城跡（2005－66区）
1. 2005－66区　完掘状況　（南より）
2. 2005－66区　調査区東壁断面　（西より）
図版４　沢城跡（2006－40区）
1. 2006－40区　完掘状況　（東より）
2. 2006－40区　調査区南壁断面　（北より）
図版５　沢西遺跡（2006－23区）
1. 2006－23区　完掘状況　（西より）
2. 2006－23区　調査区西壁断面　（東より）
図版６　澱池遺跡（2005－59区）
1. 2005－59区　完掘状況　（南より）
2. 2005－59区　調査区西壁断面　（東より）
図版７　半田遺跡（2006－37区）
1. 2006－37区　完掘状況　（南より）
2. 2006－37区　調査区西壁断面　（東より）
図版８　新井・鳥羽北遺跡（2006－19区）
1. 2006－19区　完掘状況　（南より）
2. 2006－19区　調査区西壁断面　（東より）
図版９　石才南遺跡（2006－27区）
1. 2006－27区　完掘状況　（北より）
2. 2006－27区　調査区西壁断面　（東より）
図版10　石才南遺跡（2006－57区）
1. 2006－57区　完掘状況　（東より）
2. 2006－57区　調査区南壁断面　（北より）
図版11　地蔵堂廃寺（2006－25区）・地蔵堂遺跡（2006－45区）
1. 2006－25区　完掘状況　（北より）
2. 2006－45区　調査区１完掘状況　（東より）
図版12　堤西浦遺跡（2005－62区）
1. 2005－62区　調査区１第１面　鋤溝完掘状況　（北より）
2. 2005－62区　調査区１第２面　完掘状況　（東より）
図版13　三ヶ山西遺跡（2006－14区）・水間ニノ戸遺跡（2005－61区）
1. 2006－14区　完掘状況　（東より）
2. 2005－61区　完掘状況　（東より）
図版14　水間ニノ戸遺跡（2006－６区）
1. 2006－６区　完掘状況　（東より）
2. 2006－６区　調査区北壁断面　（南より）
図版15　水間ニノ戸遺跡（2006－35区）
1. 2006－35区　調査区１完掘状況　（西より）
2. 2006－35区　調査区１北壁断面　（南より）

表目次

表１．平成18年国庫補助事業一覧
（平成18年１月～12月）
表２．平成元年・平成２年国庫補助事業一覧

第１章　平成18年発掘調査の概要

平成18年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は364件、遺跡外試掘調査依頼は15件である。

届出・通知にかかわる対応について、確認調査は57件、立会調査は130件、慎重工事は179件、府にて対応は２件である。このうち個人住宅の建設に伴う調査は19件である。

昨年の届出件数と比較すると、その件数は増加傾向にある。その要因としては、新井・鳥羽北遺跡においてユニチカ貝塚工場の跡地に大規模な宅地開発が行われ、分譲住宅の建設が始まったためであり、さらにその周辺において小規模の宅地造成が増加している。

個人による住宅建築は、81件で昨年と比較して横ばいである。また個人住宅および分譲住宅では、相次ぐ地震によるためか地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行う件数が増えている。

住宅以外の開発は、宅地造成17件、共同住宅の建築７件、店舗５件であり、宅地造成、共同住宅、店舗は平成17年の届出件数と比較して増加傾向にある。

遺跡範囲外においての開発は、15件であり、その目的は宅地造成８件、共同住宅１件、店舗２件、工場２件、土砂採取１件、保育所１件で前年に引き続き増加している。宅地造成については、1000㎡を超える開発は５件である。

新規の遺跡発見については、木積下代遺跡を登録した。地蔵堂遺跡、沢遺跡、小瀬遺跡、新井ノ池遺跡については、遺跡の範囲拡張を行った。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地
	(平成17年度)			
1	久保遺跡	2005-56	KB	久保53、55-3
2	澱池遺跡	2005-59	TI	沢618-1の一部
3	水間二ノ戸遺跡	2005-61	MNT	水間239-1
4	堤西浦遺跡	2005-62	TN	堤263-3の一部
5	沢城跡	2005-66	SJ	沢684-4
	(平成18年度)			
6	水間二ノ戸遺跡	2006-6	MNT	水間164-1、165
7	三ヶ山西遺跡	2006-14	MYN	三ツ松1451-1の一部、1452
8	新井・鳥羽北遺跡	2006-19	NTK	新井97-8、97-12
9	土生遺跡	2006-21	HB	久保180-1、-2の一部
10	沢西遺跡	2006-23	SN	沢171-5の一部
11	地蔵堂廃寺	2006-25	GZZH	地蔵堂93-1、94-2
12	石才南遺跡	2006-27	ISS	麻生中421-1の一部
13	津田遺跡	2006-34	TD	津田南町205-18、205-19
14	水間二ノ戸遺跡	2006-35	MNT	水間250-1の一部、三ツ松758-2の一部
15	半田遺跡	2006-37	HD	麻生中948-5
16	沢城跡	2006-40	SJ	沢1315-3、1318-2、1319-2
17	地蔵堂遺跡	2006-45	GZZ	地蔵堂228の一部
18	加治・神前・畠中遺跡	2006-50	KKH	海塚329-1、329-2、331-1
19	石才南遺跡	2006-57	ISS	麻生中452-1

表１　平成18年国庫補助事業一覧（平成18年１月～12月）

1. 沢新出遺跡 2. 沢海岸遺跡 3. 沢遺跡 5. 長楽寺跡 7. 地蔵堂丸山古墳 8. 地蔵堂廃寺 9. 下新出遺跡 10. 秦廃寺 15. 麻生中新池遺跡 16. 河池遺跡 17. 水間寺遺跡 18. 木積観音寺跡 20 堀遺跡 21 橋本遺跡 22. 貝塚寺内町遺跡 23. 加治・神前・畠中遺跡 24. 明楽寺跡 25. 沢共同墓地遺跡 26. 沢西出遺跡 27. 沢海岸北遺跡 28. 沢城跡 29. 新井・鳥羽遺跡 30. 新井ノ池遺跡 31. 半田遺跡 32 麻生中遺跡 34. 澱池遺跡 35. 積善寺城跡 36. 清児遺跡 37. 集原池遺跡 38. 高井天神廃寺・高井城跡 39. 森城跡 40. 森Ｂ遺跡 41. 森ノ大池遺跡 42. 森Ａ遺跡 43. 二ツ池遺跡 44. 千石堀城跡 45. 水間墓地 46. 三ケ山城跡 47. 片山墓地 48. 蛇谷城跡 51. 窪田遺跡・窪田廃寺 53. 坊城遺跡 54. 三ツ松遺跡 55. 槍ヶ谷城跡 56. 半田遺跡（清児地区） 57. 堤遺跡 58. 小瀬五所山遺跡 59. 石才遺跡 60. 王子遺跡 61. 土生遺跡 64. 海岸寺山遺跡 66. 脇浜遺跡 67. 今池遺跡 68. 三ヶ山遺跡 69. 三ヶ山西遺跡 70. 石才南遺跡 71. 名越遺跡 72. 地蔵堂遺跡 73. 名越西遺跡 74. 木積遺跡 75. 新井・鳥羽北遺跡 78. 沢西遺跡 79. 王子西遺跡 80. 津田遺跡 81. 三ヶ山オニ谷遺跡 82. 福田遺跡 83. 森下代遺跡 84. 三ツ松北垣外遺跡 85. 薬師池西遺跡 86. 麻生中出口遺跡 87. 小瀬遺跡 88. 堤三宅遺跡 89. 沢新開遺跡 90. 沢タナジリ遺跡 91. 堀新遺跡 92. 橋池遺跡 93. 麻生中下代遺跡 94. 堀秋毛遺跡 95. 半田北遺跡 96. 沢老ノ塚遺跡 97. 東遺跡 98. 馬場遺跡 100. 鳥の池西遺跡 101. 白地谷遺跡 102. 津田北遺跡 103. 久保遺跡 108. 水間二ノ戸遺跡 109. 窪田ハマデ遺跡 110. 海塚遺跡 111. 脇浜川端遺跡 112. 馬場笹力遺跡 113. 橋本野岸ノ下遺跡 114. 麻生中薬師堂遺跡

図１　貝塚市遺跡分布図（部分・貝塚市域のみ）

2006-21区
2005-56区
58
87
2006-34区
80
75
91
82
76
22
2006-50区
6
0
400m

図２　調査地位置図

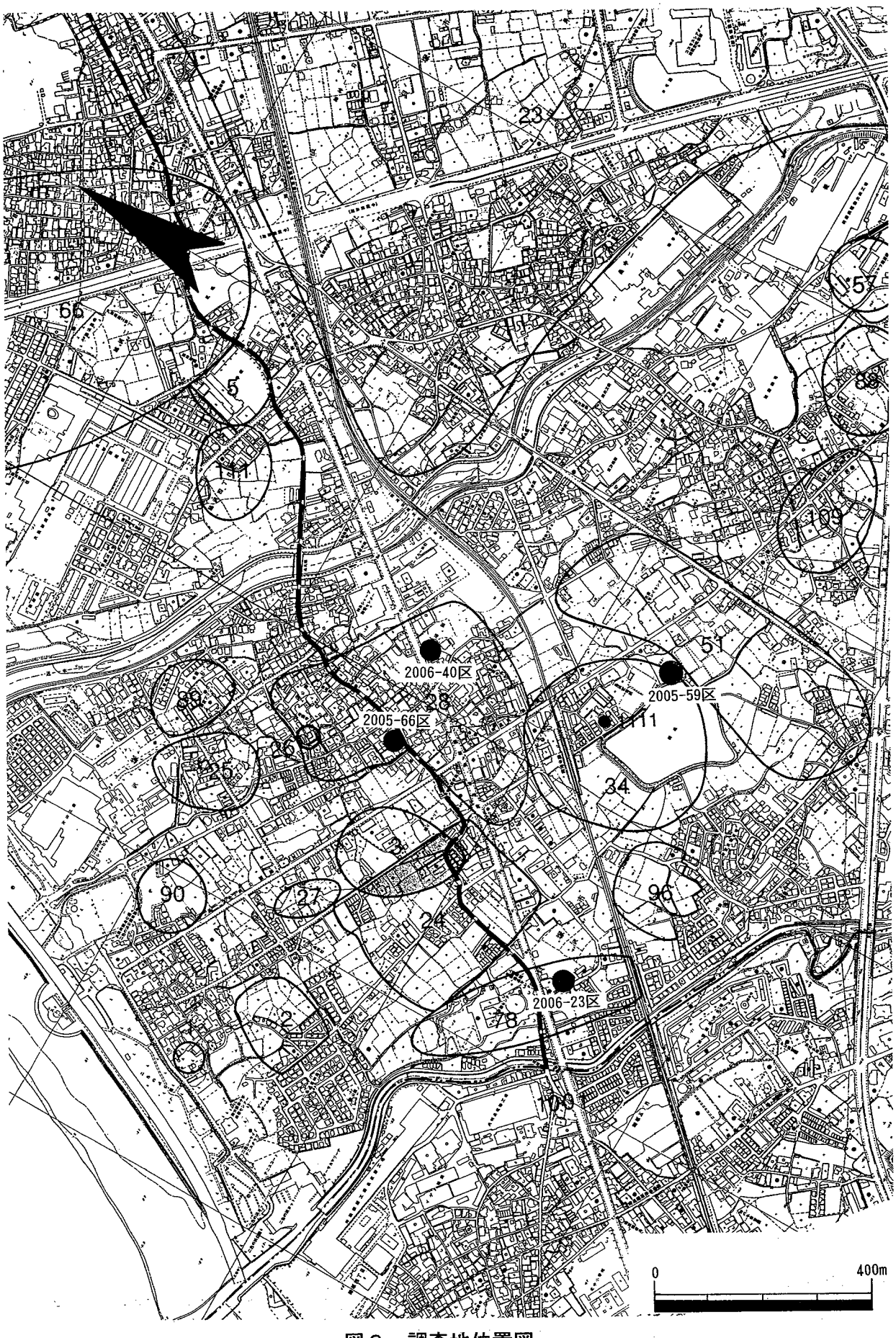


図３　調査地位置図

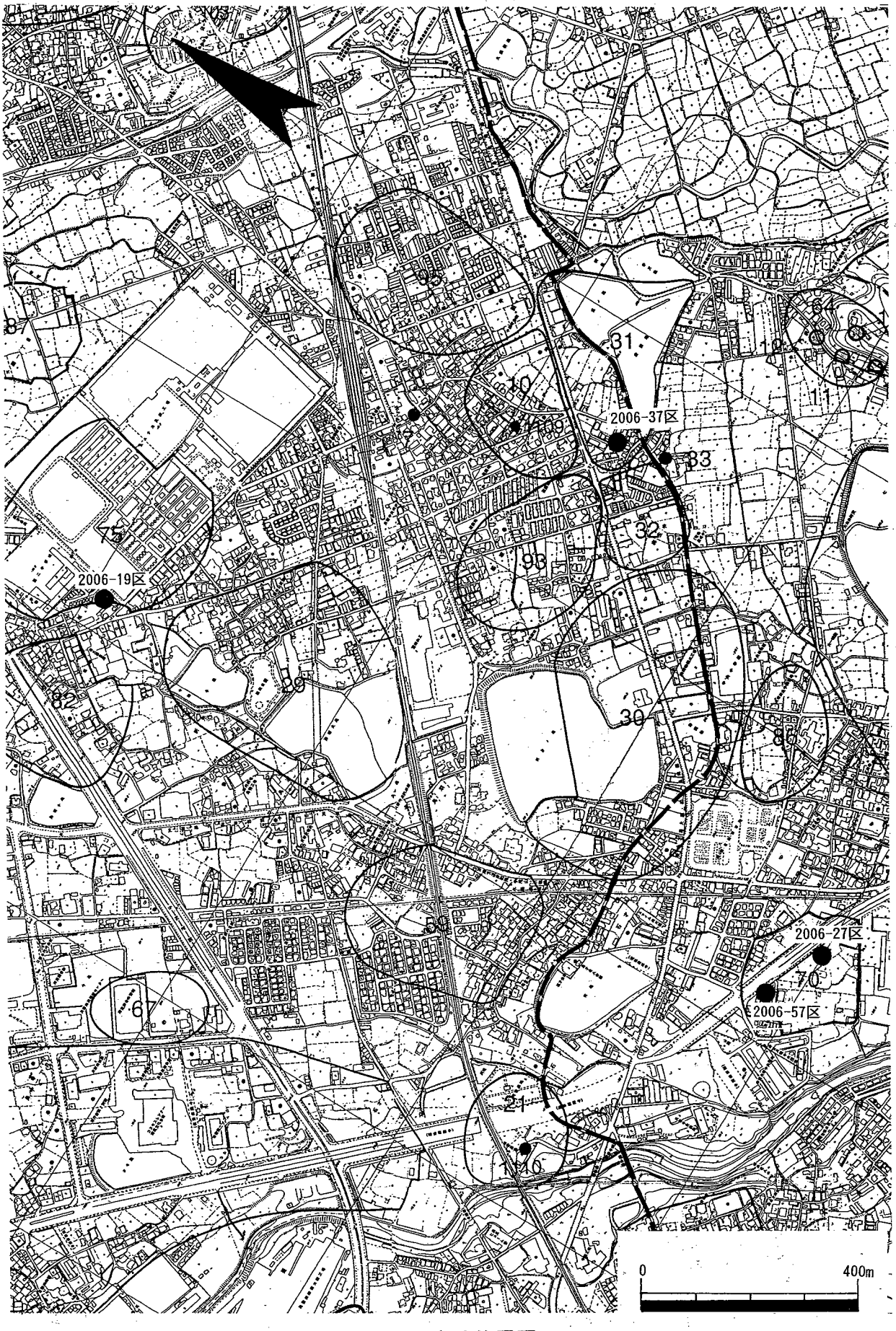
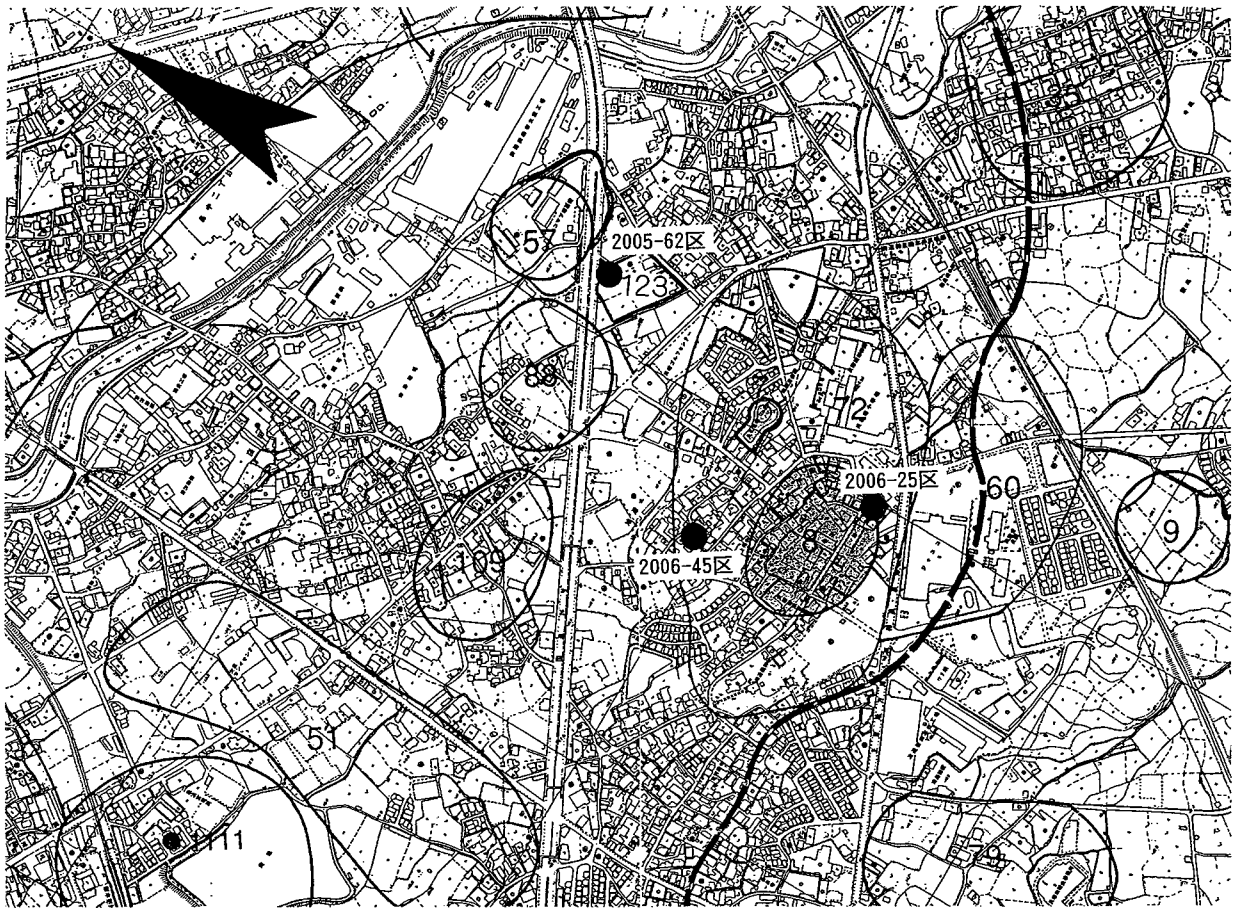

2006-37区
2006-19区
2006-27区
2006-57区
31
10
11
33
32
93
75
82
89
30
86
67
21
16
70
0
400m

図４　調査地位置図


2005-62区
123
5
88
72
2006-25区
60
9
8
2006-45区
109
51
111

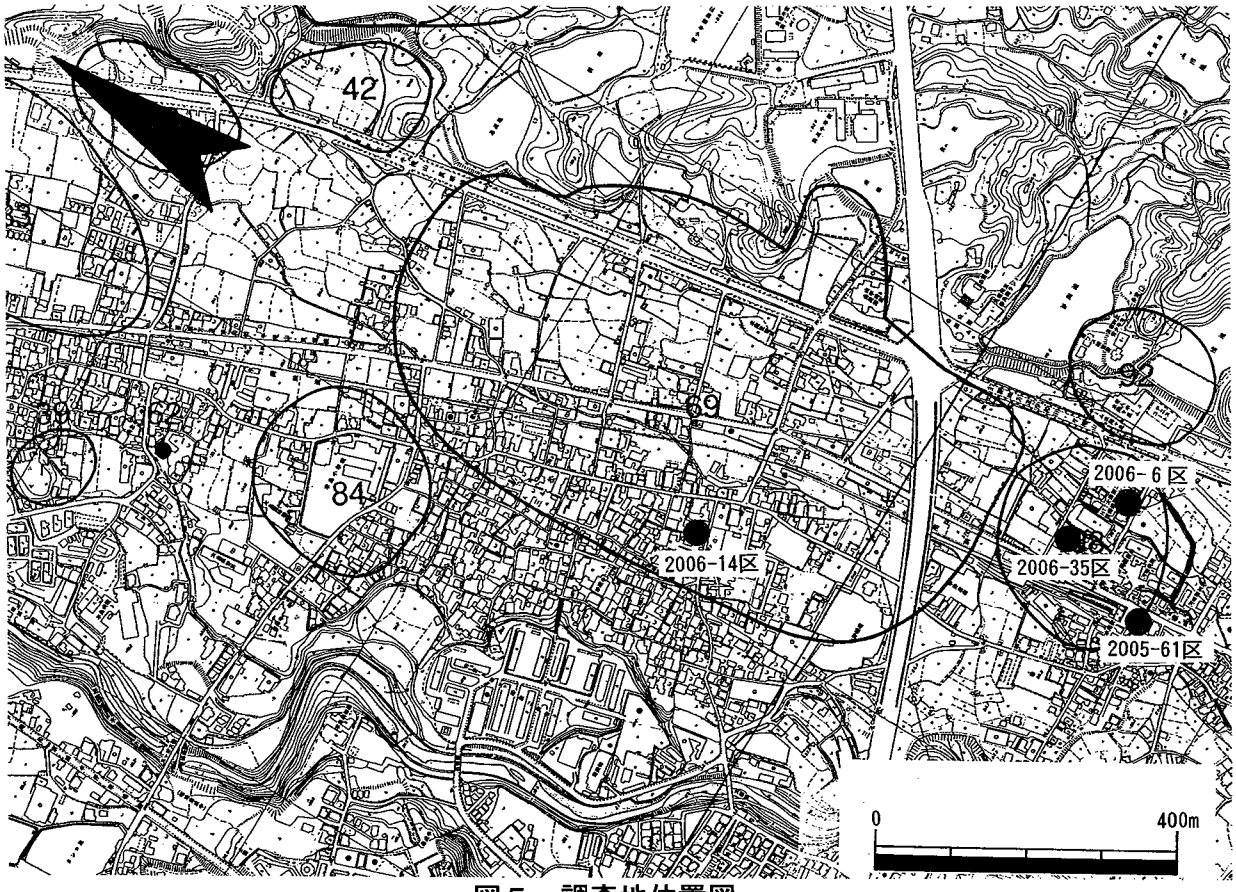

42
69
84
2006-14区
2006-6区
2006-35区
2005-61区
0
400m

図５　調査地位置図

第２章　調査の成果

１．久保遺跡

本遺跡は、津田川右岸の中位段丘上、標高16mに位置し、周知の遺跡として縄文時代、平安時代～近世にかけての集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代から古墳時代にかけての遺構を検出している土生遺跡、６～７世紀の掘立柱建物跡を検出している小瀬五所山遺跡が存在する。

2005－56区の調査（図６・図版１）

本調査は、久保53、55－３において実施した。調査は、申請地内において調査区（6.75㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土（層厚0.5m）、第２層は灰色砂質土（層厚0.2m）、第３層はにぶい橙色粘質シルト（地山）である。第２層は旧耕土やにぶい橙色土のブロック土を含み、遺物は出土していない。第３層上面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

本申請地は、土層の観察等により土地の削平や撹乱を受けているものと考えられる。　（木嶋）

２．土生遺跡

本遺跡は、津田川の右岸、標高約15mの中位段丘上に位置する。1992年（平成４年度）の調査では弥生時代の溝を検出している。出土遺物は弥生時代中期の遺物を中心に出土している。1993年（平成４年度）の調査においては弥生時代中期から古墳時代に機能していたと考えられる溝を３条検出している。

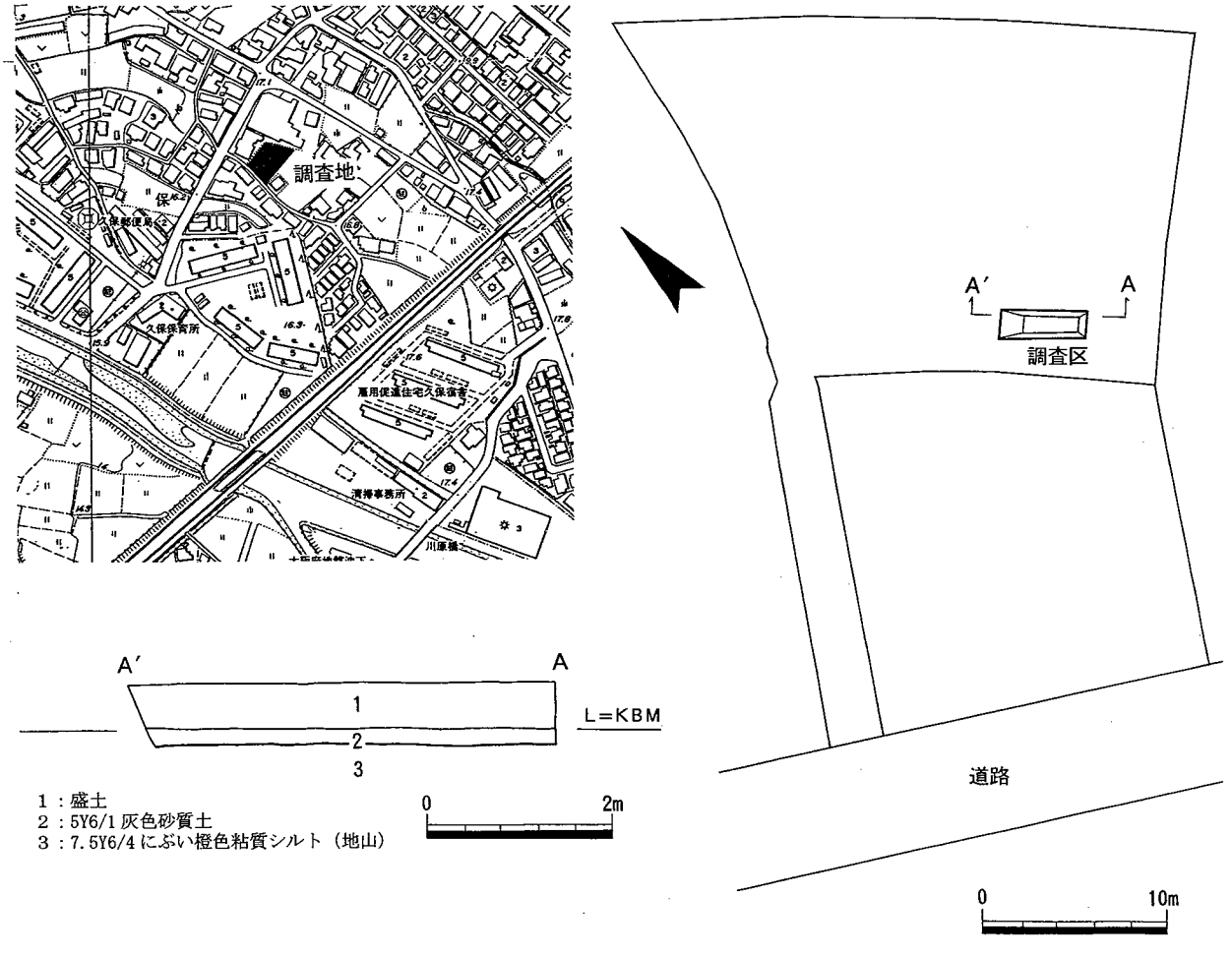


図６　2005－56区

2006－21区の調査（図７・図版１）

本調査は、久保1801－１、－２の一部において実施した。調査は、申請地内において２箇所の調査区（計７㎡）を設定して行った。

調査区１の層序は、第１層が盛土および撹乱、第２層は灰黄色土、第３層はにぶい黄橙色粘土（地山）である。第２層より土師器が出土していることにより中世の遺物包含層の可能性がある。調査区１の地山面において遺構検出を行い、北西－南東方向の溝状遺構を検出した。遺構の深さは0.2m、埋土は灰白色砂である。遺物は出土していない。

調査区２の層序は、第１層が盛土および撹乱、その下層は第３層の黄褐色粘土（地山）である。調査区２の地山面において遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。調査区２は、土地の削平により遺物包含層および遺構は失われたものと考えられる。

調査区１において検出した溝状遺構については、今回の調査では人為的なものかどうか判断することができなかった。（木嶋）

３．津田遺跡

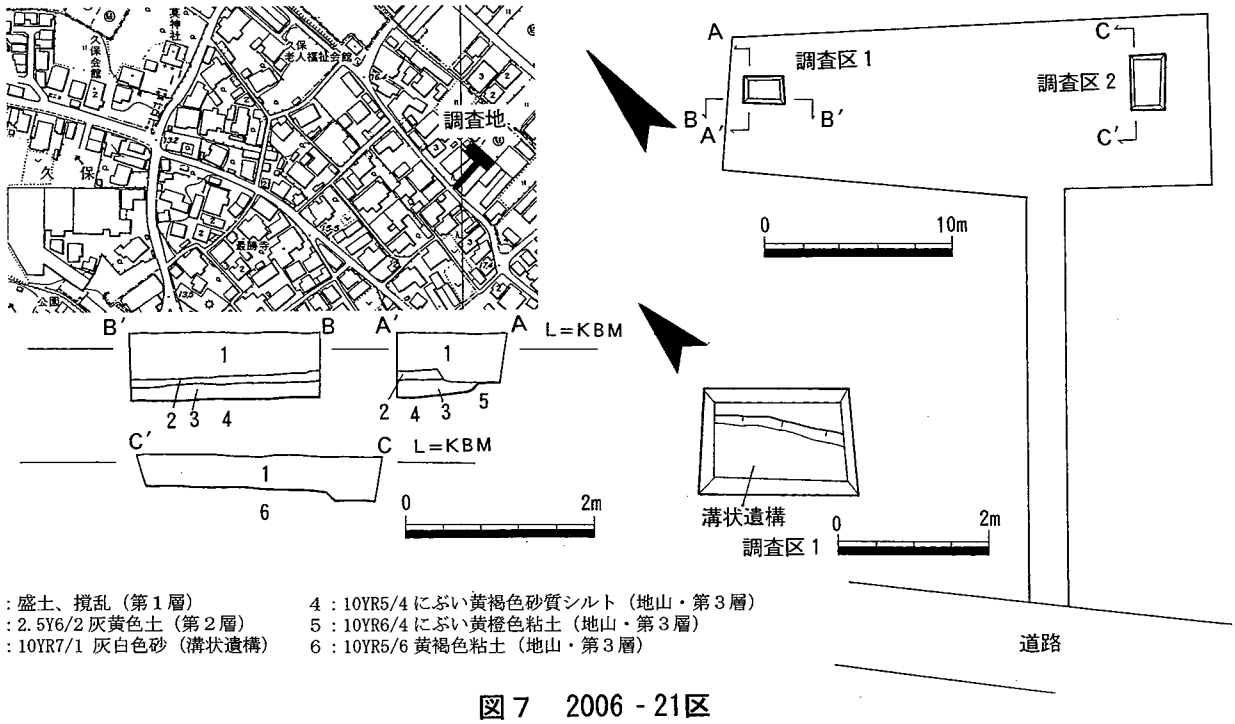
本遺跡は、津田川の左岸、中位段丘上、標高３～５mに位置し、周知の遺跡として中世から近世にかけての集落跡、窯跡と推定している。本遺跡の周辺には、中世から近世にかけて願泉寺を中心に繁栄した貝塚寺内町遺跡が存在する。本遺跡は、平成５年（1993年）の調査において近世の土坑を検出している。また陶磁器、窯道具等が出土しており、周囲に窯跡の存在が推測される。

2006－34区の調査（図８・図版２）

本調査は、津田南町205－18、205－19において実施した。調査は、申請地内において調査区（6.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土・撹乱層（層厚0.23～0.35m）、第２層はにぶい黄褐色シルト～細砂混じり土、第３層は灰黄褐色礫砂である。

地層堆積状況から判断して地層は削り取られており遺物包含層、遺構は確認できなかった。第２層、第３層は河川堆積層と考えられる。（三浦）



１：盛土、撹乱（第１層）
２：2.5Y6/2 灰黄色土（第２層）
３：10YR7/1 灰白色砂（溝状遺構）
４：10YR5/4 にぶい黄褐色砂質シルト（地山・第３層）
５：10YR6/4 にぶい黄橙色粘土（地山・第３層）
６：10YR5/6 黄褐色粘土（地山・第３層）

図７　2006－21区

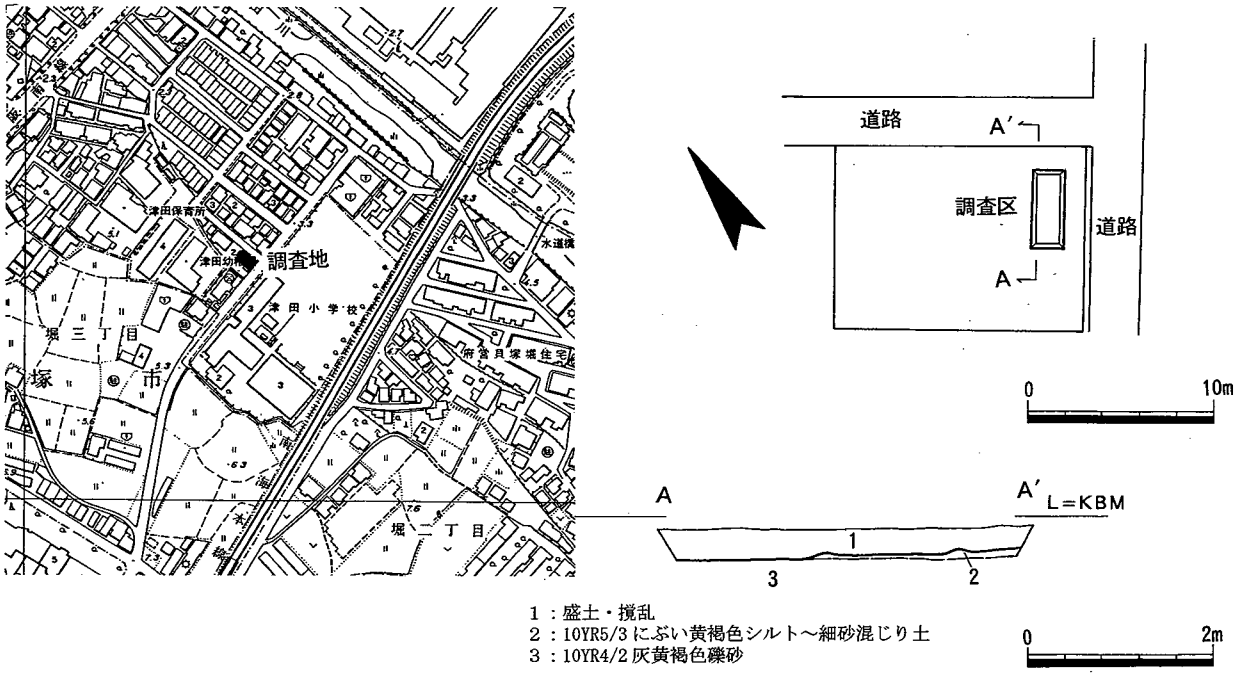


図８　2006－34区

４．加治・神前・畠中遺跡

加治・神前・畠中遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高11～20mに位置する。本遺跡は、これまでの調査で弥生時代の井戸跡、古墳時代前期の掘立柱建物跡、古墳時代後期の竪穴住居跡、古代の掘立柱建物跡、竪穴住居跡、井戸跡、溝跡等を検出しており、古代においては集落跡もしくは公的施設が存在した可能性がある。平成12年度（2000年）の調査において平安時代の瓦窯跡を10基検出しており、生産施設の存在が明らかとなっている。

2006－50区の調査（図９・図版２）

本調査は、海塚329－１、329－２、331－１において実施した。調査は、申請地内において調査区（7.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層は盛土（層厚0.3～0.4m）、２層は耕作土（層厚0.1m）、３層は暗灰黄色砂混じり土（層厚0.03～0.15m）、４層は暗灰黄色粘質土（層厚0.06～0.08m）、５層は黒褐色土（層厚0.05～0.15m）、６層は暗灰黄色砂混じり土（層厚0.03～0.24m）、７層は暗灰黄色砂である。

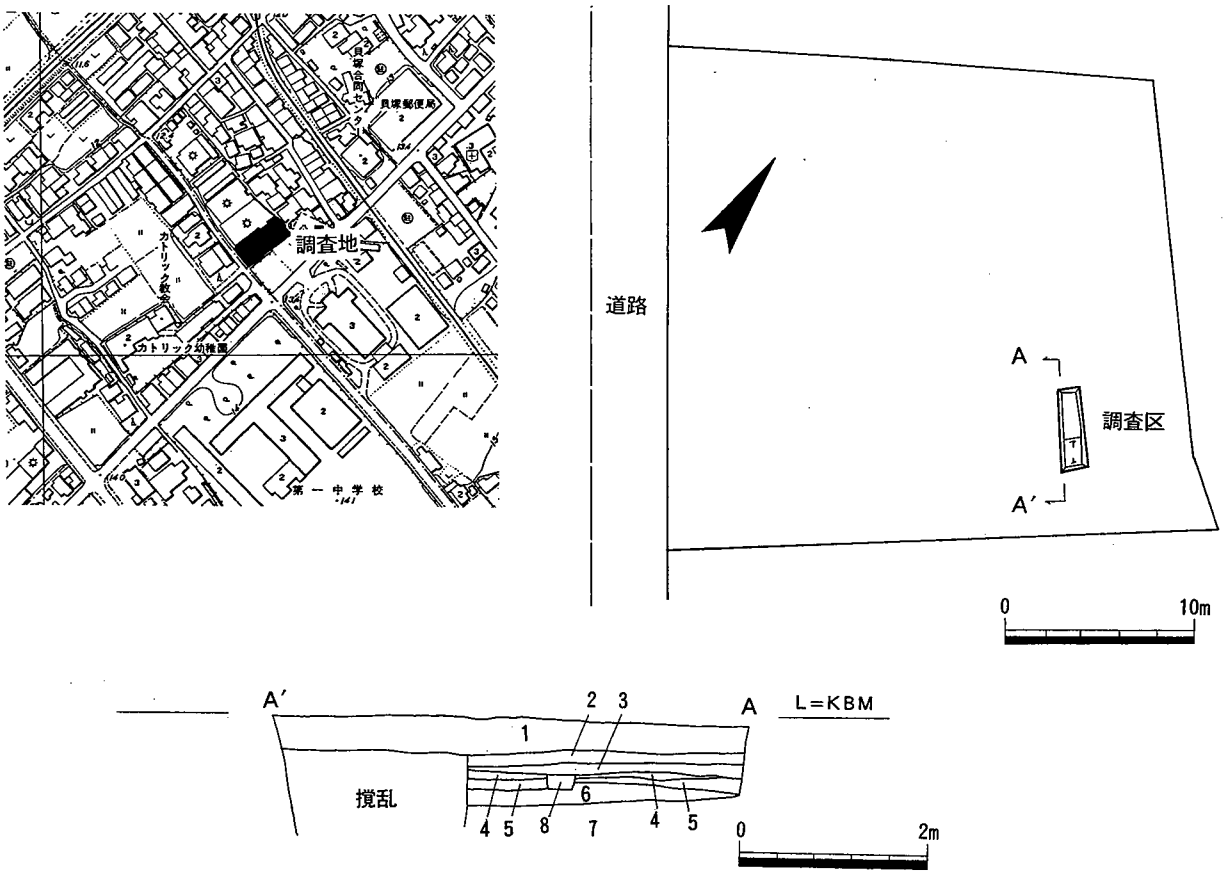
地層堆積状況から判断して、５層から８層は流路堆積層の可能性がある。３層、４層は農地層と考えられる。８層は暗渠排水溝である。上層に約５cm の丸石、下層に竹を入れている。遺構は検出できなかった。遺物は出土していない。

調査の結果、流路堆積層の可能性がある地層、農地層を確認し、暗渠排水溝を検出したが、遺物包含層、遺構は確認できなかった。（三浦）

５．沢城跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高８～11m に位置する。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定されている。沢城は紀州根来勢により畠中城・積善寺城とともに近木川流域に築かれた城である。天正13年(1585年)の豊臣秀吉による紀州攻めの際には、宝蔵院、田中加助ら紀州の一向宗と雑賀衆約6000人が籠城したとされる。

沢城跡では、中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。平成13年度（2001年）の調査では、溝を検出し、溝内より大量の瓦が出土していることから、沢城に関連する溝と考えられる。



1：盛土
2：耕作土
3：2.5Y4/2 暗灰黄色砂混じり土
4：2.5Y4/2 暗灰黄色粘質土
5：10YR3/1 黒褐色土
6：2.5Y5/2 暗灰黄色砂混じり土
7：2.5Y5/2 暗灰黄色砂
8：丸石（暗渠排水溝）

図９　2006 - 50区

2005 - 66区の調査（図10・図版３）

本調査は、沢684 - ４において実施した。調査は、申請地の建物部分において調査区（32.5㎡）を設定して行った。

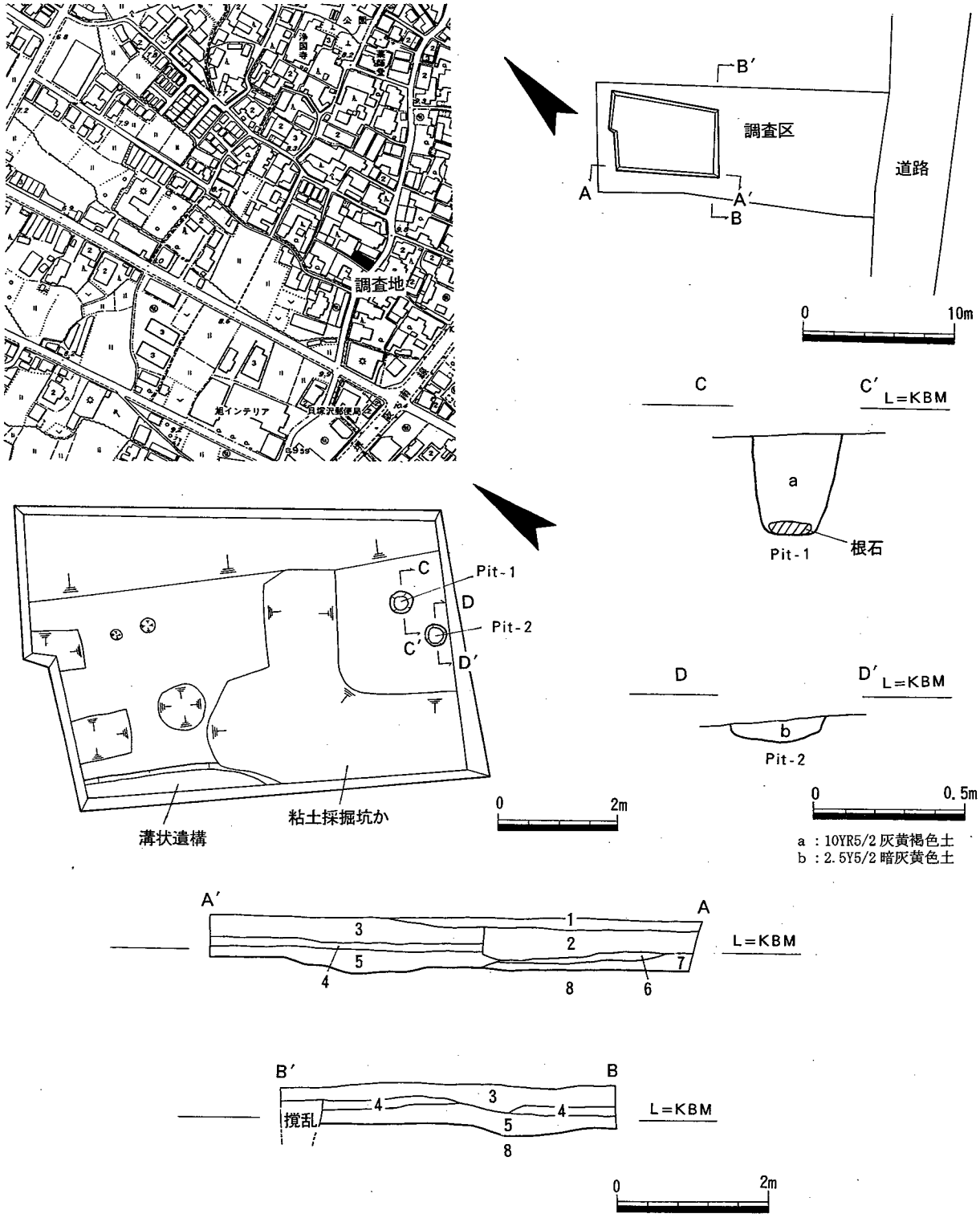
調査区の層序は、１～６層は盛土および撹乱であり、近年の建物等により土地の破壊を受けている。また５層は粘土ブロックを含む黄灰色土であり、土師器、瓦器の他、瓦や陶磁器等の近世の遺物が混在していることから、近年の建物による撹乱以外に粘土採掘が行われていた可能性がある。４層は厚さ0.1mほどの粘土を敷き詰めていることから、近世以降の整地層と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、調査区南側で柱穴を、調査区西端部で溝状遺構を検出した。柱穴は２基（Pit - １・２）検出し、Pit - １は直径0.3m、深さ0.3m、埋土は灰黄褐色土であり、柱穴底部より河原石が認められ、根石と考えられる。Pit - １より瓦器が出土している。Pit - ２は直径0.3m、深さは0.1mであり、Pit - １とは深さが異なるため、同一建物の可能性は低い。

溝状遺構は、その範囲が調査区外に及ぶため、規模等は不明であるが、埋土より土師器、瓦器が出土している。

本申請地は、粘土採掘や建物等により土地は撹乱を受けており、遺物包含層は失われていたが、地山面において柱穴や溝状遺構が残存していた。これらの遺構を検出したことにより、中世の掘立柱建物が存在していたものと考えられる。

（木嶋）



1：盛土
2：撹乱1
3：撹乱2
4：2.5Y7/4 浅黄色粘土（整地層）
5：2.5Y7/3 浅黄色粘土ブロック混じり 2.5Y5/3 黄灰色土（粘土採掘層か）
6：2.5Y5/1 黄灰色土（粘土採掘層か）
7：2.5Y5/2 暗灰黄色土（溝状遺構）
8：2.5Y7/3 浅黄色粘土（地山）

図10　2005 - 66区

2006－40区の調査（図11・図版４）

本調査は、沢1315－３、1318－２、1319－２において実施した。調査は申請地内において調査区（4.8㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が耕作土（層厚0.2～0.25m）、２層は床土（層厚0.05m）、３層は暗灰黄色砂混じり土（層厚0.1～0.12m）、４層はで浅黄色土（地山）である。

３層は地層堆積状況から判断して、近代以降に掘削された溝あるいは落ち込みと考えられる。地層は削り取られており遺物包含層、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。（三浦）

６．沢西遺跡

本遺跡は、見出川の右岸、中位段丘上、標高５～９ｍに位置し、周知の遺跡として弥生時代、中世の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代～奈良時代、中世、近世の集落跡である沢遺跡、平安時代の寺院跡である明楽寺跡が存在している。本遺跡は、平成３年（1991年）の調査において平安時代の溝、性格不明遺構、鋤溝等、中世の掘立柱建物跡１棟、溝、鋤溝を検出している。

2006－23区の調査（図12・図版５）

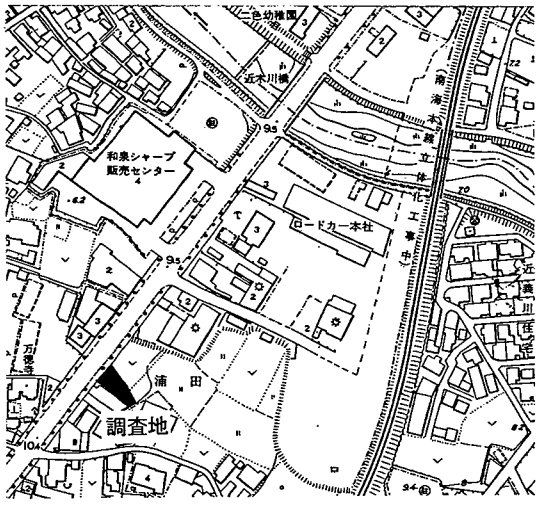
本調査は、沢171－５の一部において実施した。調査は、申請地内において調査区（4.5㎡）を設定して行った。

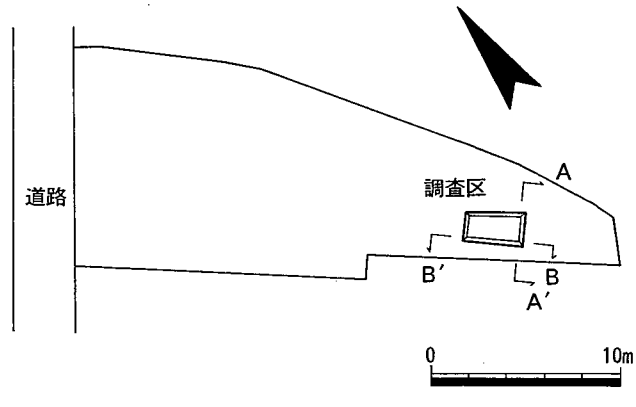
調査区の層序は、第１層が盛土および撹乱（層厚0.15～0.5m）、第２層は旧耕土（層厚0.15m）、第３層は明黄褐色粘土（地山）である。遺物包含層は確認できなかった。

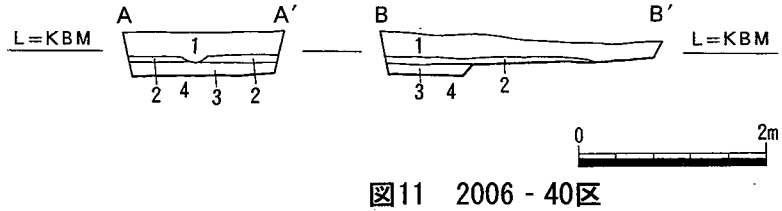
地山面において遺構検出を行い、溝（SD－１）、鋤溝を検出した。

SD－１は、調査区北側で検出した溝であり、その規模は深さ0.05m、遺構の幅は調査区外に及ぶ。埋土は黄灰色土であり、遺物は瓦器が出土している。鋤溝は南北方向のものを３条検出した。鋤溝の埋土は灰白色土であり、遺物は土師器等が出土している。調査区南壁で検出した遺構断面も鋤溝と考えられる。SD－１と鋤溝は切り合い関係にあり、鋤溝の方が古い。これらの遺構の時期については、出土遺物等により中世と考えられる。

申請地については、土地の削平を受けており、遺物包含層は失われていたが、地山面で SD－１、鋤溝を検出したこと、申請地の北において中世の耕地層を検出していることにより、申請地周辺は中世の耕地跡であったと推測される。（木嶋）







1：耕作土
2：床土
3：2.5Y5/2 暗灰黄色砂混じり土
4：2.5Y7/4 浅黄色土（地山）

図11　2006－40区

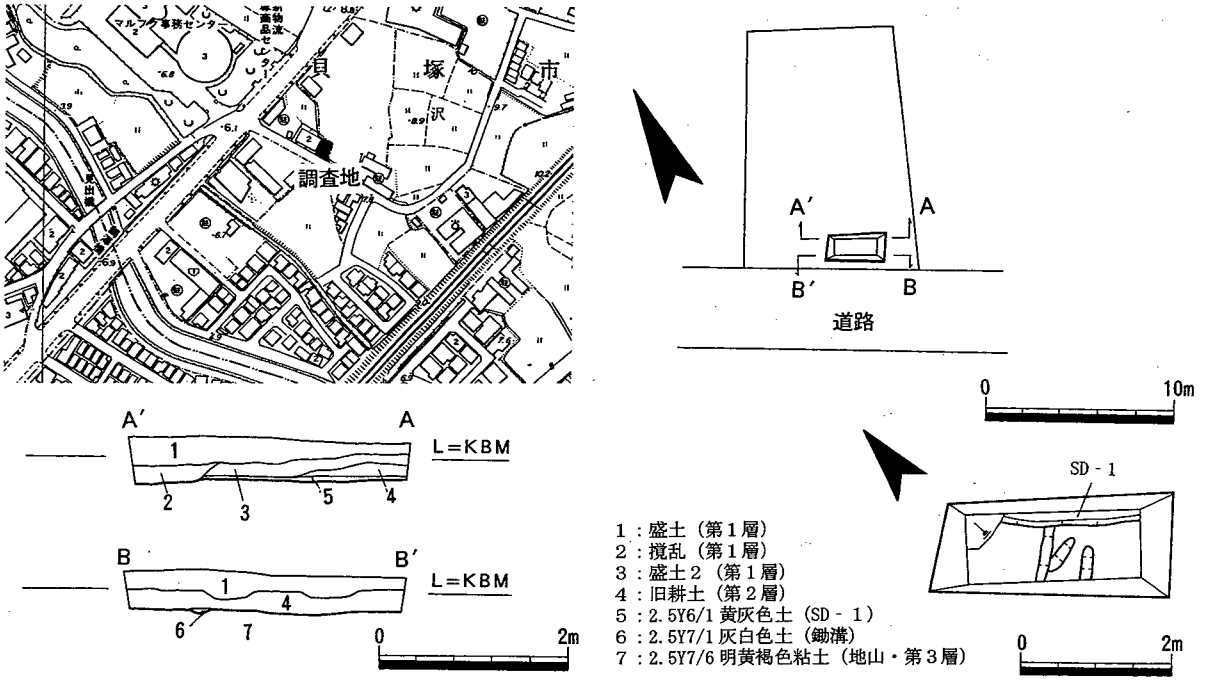


図12　2006－23区

7．澱池遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高11mに位置し、周知の遺跡として奈良時代から室町時代にかけての集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代から中世にかけての遺物散布地ならびに寺院跡と推定される窪田遺跡・窪田廃寺があり、14世紀後半ごろの土坑状遺構１基、ピット３基を検出している。中世・戦国時代の集落跡・城跡と推定される沢城跡では、中世の掘立柱建物跡、耕地跡、溝等を検出している。

2005－59区の調査（図13・図版６）

本調査は、沢618－１の一部において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（3.75㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が現耕土（層厚0.2m）、第２層はにぶい黄橙色土混じり灰白色土（層厚0.08m・床土）、第３層は灰白色シルト混じり灰黄褐色粘質土（層厚0.15m）、第４層は明黄褐色粘土（地山）である。

第３層は遺物包含層であり、土師器が出土している。第３層は土質等の観察により中世の耕地層と考えられる。調査区壁面において第３層より掘り込まれている溝（SD－１）を検出した。

SD－１は、東西方向の溝であり、その規模は、幅0.7m、深さ0.15m、埋土は褐灰色微砂混じり粘質シルトである。遺物は出土していないため、時期は不明であるが、第３層との関係において中世から近世にかけて設けられたものと推測される。

地山面において遺構検出をおこなったが、SD－１以外は確認できなかった。

申請地の南西部は、澱池の堤（道路）に接しており、今回検出した SD－１と堤（側溝）の方向性が一致していることから、SD－１は澱池築堤後に設けられた可能性がある。　（木嶋）

8．半田遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約28mに位置し、周知の遺跡として中世の集落跡と推定される。これまでの調査では、掘立柱建物跡、溝等、７～８世紀にかけての遺構を検出している。本遺跡の西には古代寺院跡と推定される秦廃寺、麻生中下代遺跡が存在している。麻生中下代遺跡では、大阪府教育委員会（平成８・11年度）、本市教育委員会（平成15年度）において発掘調査を実施し、弥生時代中期の竪穴住居跡、古代の竪穴

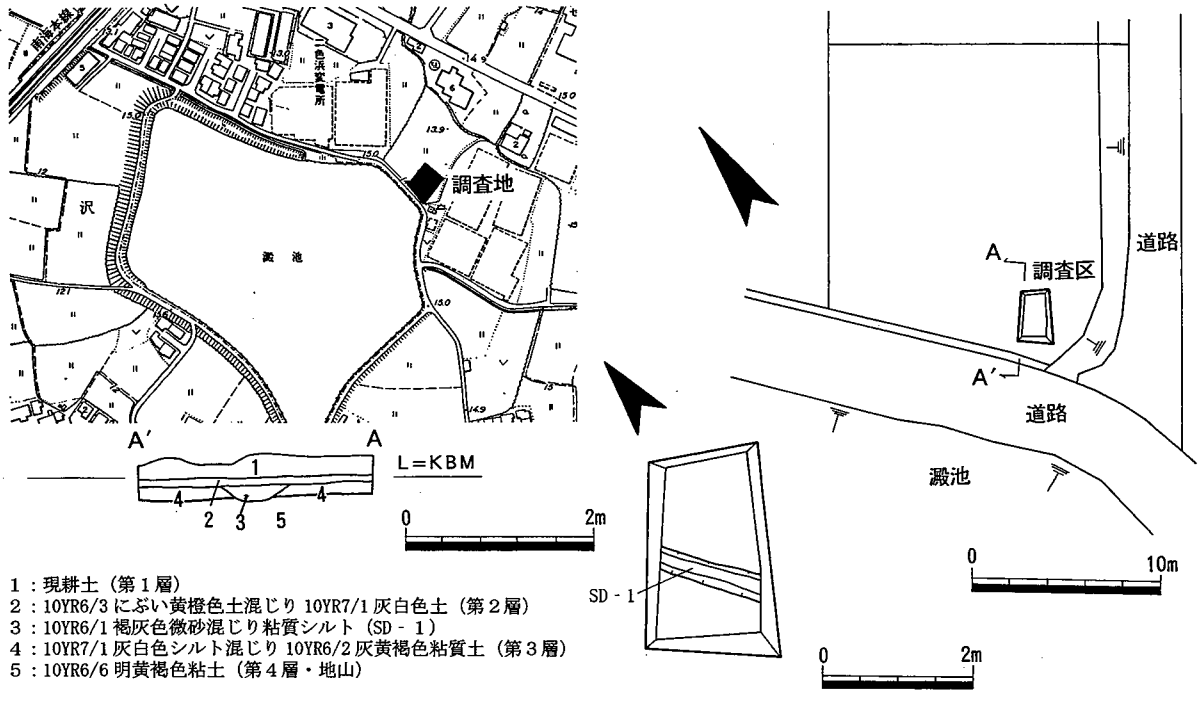


図13　2005－59区

住居跡および掘立柱建物跡が検出されている。本遺跡や麻生中下代遺跡は、秦寺周辺に形成された集落跡と推定される。

2006－37区の調査（図14・図版７）

本調査は、麻生中948－５において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分について調査区（4.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土（層厚0.45～0.74m）、第２層は耕作土（層厚0.15～0.2m）、第３層はにぶい黄褐色礫混じり土（地山）である。

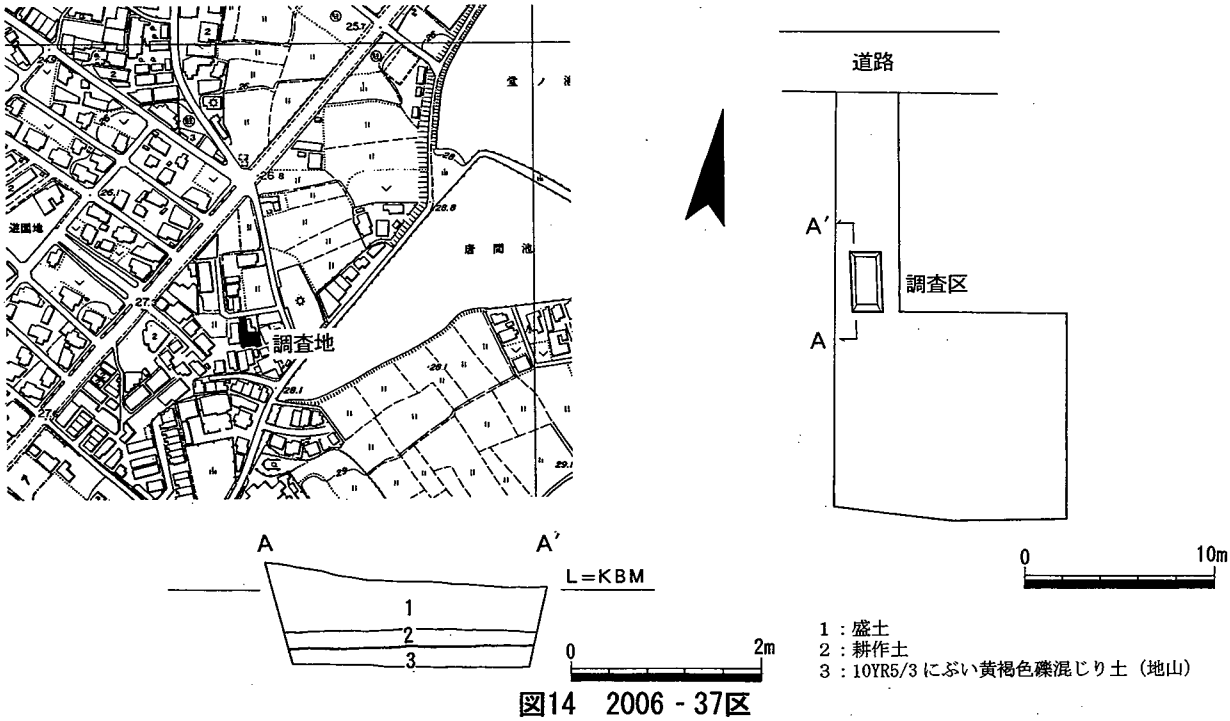


図14　2006－37区

地層堆積状況から判断して、地層が削り取られており遺物包含層、遺構は確認できなかった。遺物は出土していない。 (三浦)

9. 新井・鳥羽北遺跡

本遺跡は、津田川左岸の中位段丘上、標高16～18mに位置し、周知の遺跡として中世、近世の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、弥生時代から室町時代にかけての集落跡である新井・鳥羽遺跡、平安時代から近世にかけての集落跡である小瀬遺跡、中世の集落跡と推定される半田ヨコマクラ遺跡、小瀬与九郎遺跡が存在する。

本遺跡においては、これまでの調査で中世の掘立柱建物跡、溝、鋤溝等を検出しており、中世の集落跡、耕地跡が存在したものと推測される。

2006－19区の調査（図15・図版８）

本調査は、新井97－８、97－12において実施した。調査は、申請地の建物部分と浄化槽部分について２箇所の調査区（計19㎡）を設定して行った。

調査区１・２の基本層序は、第１層が盛土、第２層は旧耕土、第３層はにぶい黄色土混じり黄灰色土～灰オリーブ色土、第４層は明黄褐色粘土（地山）である。

第３層より瓦器、須恵質土器が出土しており、中世の遺物包含層と考えられる。

調査区１・２の地山面において遺構検出を行い、調査区１より南北方向の溝（SD－１）と鋤溝を検出している。SD－１の規模は、幅0.4m、深さ0.05m～0.15m、埋土は上層が灰色粗砂混じり粘質シルト、下層は灰色粗砂である。遺物は出土していない。

鋤溝は、南北方向と東西方向の２種類を検出した。鋤溝の埋土は、南北方向が灰色砂質土、東西方向は灰色砂混じり土である。南北方向の鋤溝より瓦器が出土している。

本申請地については、出土遺物や検出した遺構により中世の耕地跡と考えられ、南北方向の溝（SD－１）は耕地に伴う水路と推測される。 (木嶋)

10. 石才南遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上に位置し、周知の遺跡として弥生時代から古墳時代の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、縄文時代、平安時代～中世の散布地である石才遺跡、弥生時代、古墳時代、中世の集落跡である新井ノ池遺跡、奈良時代～平安時代の散布地である清児遺跡が存在する。本遺跡は、昭和63年（1988年）の（財）大阪府埋蔵文化財協会（現：（財）大阪府文化財センター）の調査において古墳時代中期以後の竪穴住居が３棟、掘立柱建物が９棟検出されている。

2006－27区の調査（図16・図版９）

本調査は、麻生中421－１の一部において実施した。調査は、浄化槽設置部分に調査区（４㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土（層厚0.6m）、第２層は盛土２（層厚0.7m）、第３層は灰オリーブ色土（層厚0.1～0.15m）、第４層は暗灰黄色土（層厚0.1m）、第５層は灰色礫混じり砂である。

地層の堆積状況、出土遺物から判断して第３層は床土、第４層は中世の遺物包含層、第５層は溝あるいは流路堆積層と考えられる。

第５層上面で遺構検出を実施したが、地面が削り取られている可能性があり、遺構は確認できなかった。遺物は第４層から瓦器が出土した。

本申請地の北西側において、貝塚中央線の新設工事に伴う発掘調査が、昭和61・62年度（1986・1987年）に（財）大阪府文化財センター（旧（財）大阪府埋蔵文化財協会）により行なわれている。昭和61・62年度に自然河川（3001－OR）が検出されており、検出幅５m以上、深さ1.5m以上である。遺物は須恵器、弥生土器が出土

している。

（三浦）

2006－57区の調査（図16・図版10）

調査は、麻生中452－１において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（６㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土（層厚0.3m）、２層は旧耕土（層厚0.15m）、３層はにぶい黄橙色シルト（層厚0.05～0.1m）、４層は褐灰色シルト（層厚0.1m）、５層は灰黄褐色砂礫（層厚0.6m）、６層はにぶい黄色砂質シルト～砂（層厚0.4m以上）である。

３層・４層は遺物包含層であり、３層より瓦器、土師器、須恵器、４層より土師器、須恵器が出土している。遺物包含層の時期については、３層が中世、４層は古墳時代の可能性がある。５層上面において遺構検出を行い、土坑１基（SK－１）を検出した。SK－１の規模は南北長が1.2m、深さ0.2m、埋土はにぶい黄橙色土に褐灰色ブロック土が混入している。SK－１より土師器、須恵器が出土している。SK－１の時期については古墳時代の可能性があり、性格については不明である。

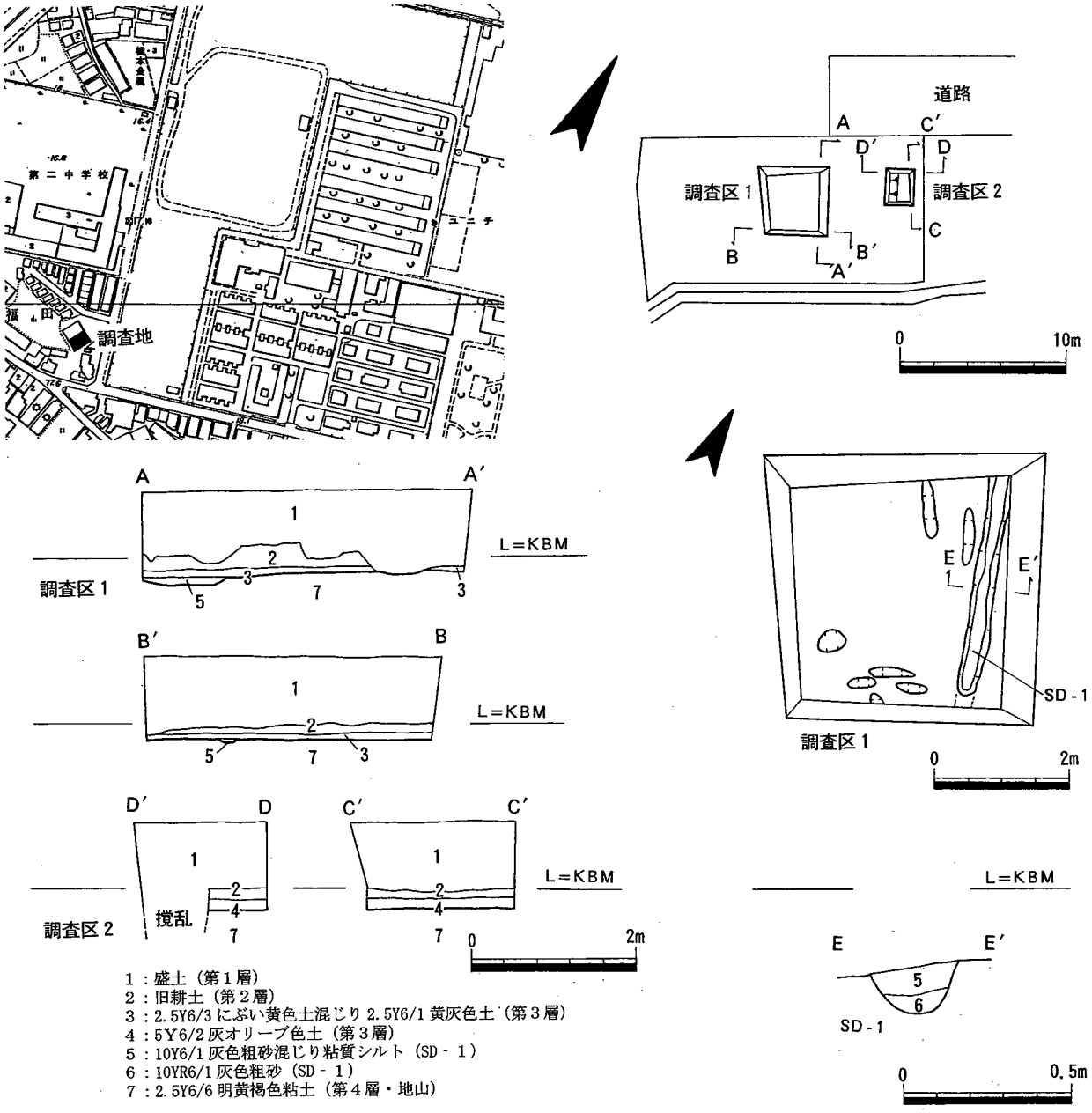
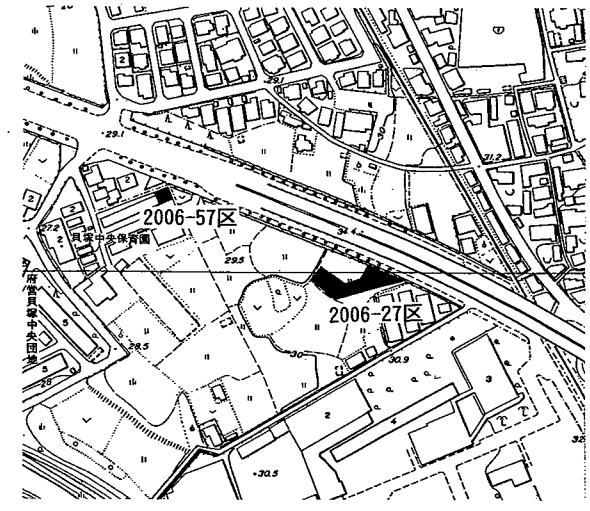
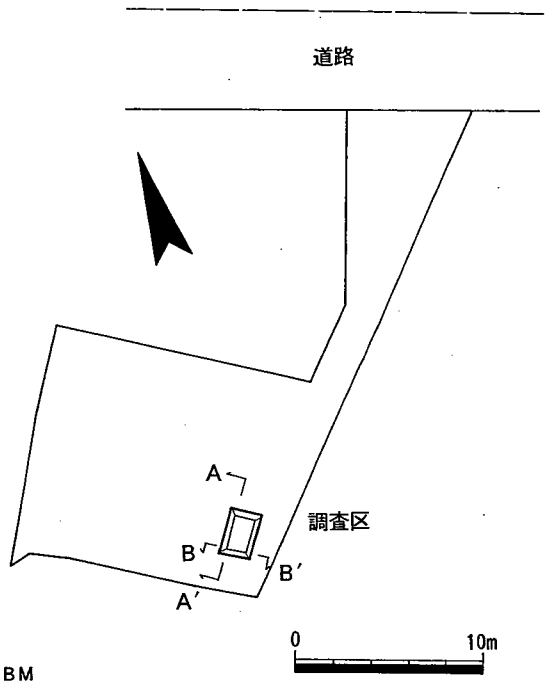
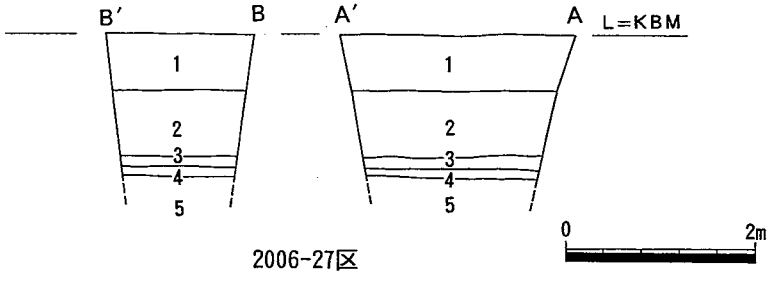


図15　2006－19区

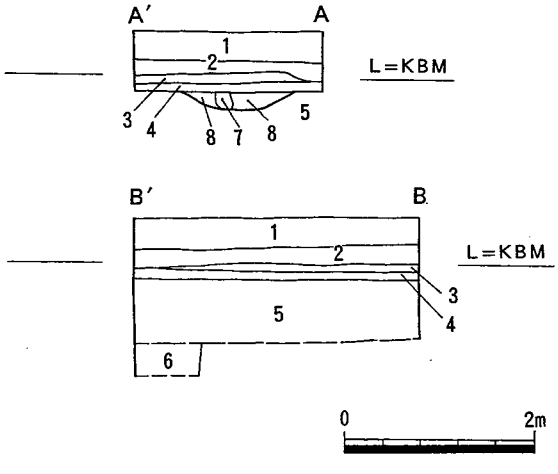


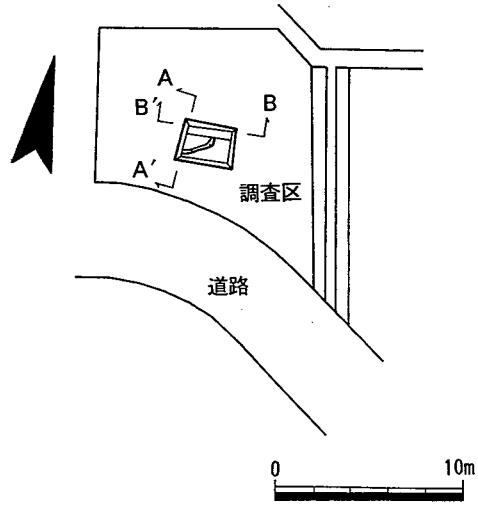


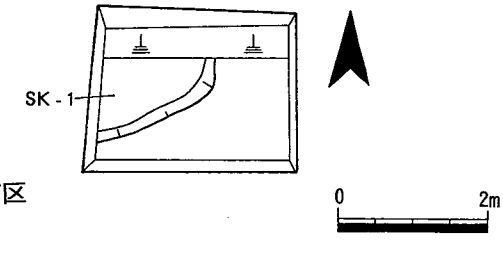


2006-27区

1：盛土
2：盛土２
3：7.5Y6/2 灰オリーブ色土
4：2.5Y5/2 暗灰黄色土
5：7.5Y5/1 灰色礫混じり砂







1：盛土
2：旧耕土
3：10YR7/2 にぶい黄橙色シルト
4：10YR6/1 褐灰色シルト
5：10YR4/2 灰黄褐色砂礫
6：2.5Y6/3 にぶい黄色砂質シルト～砂
7：7.5Y4/1 褐灰色ブロック土（SK－１）
8：10YR6/3 にぶい黄橙色土（SK－１）

2006-57区

図16　2006－27区・2006－57区

５層・６層は河川堆積層であり、遺物等は出土していないため埋没時期は不明である。

申請地においては、宅地造成に伴う調査により弥生時代から古墳時代にかけての土坑１基、溝３条、柱穴１基を検出している。土坑については焼土、炭・灰を含むことから竪穴住居の炉の可能性があり、申請地周辺は、弥生時代から古墳時代にかけての集落域と推測される。（木嶋）

11. 地蔵堂廃寺

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置し、平安時代後期の創建と考えられる地蔵堂廃寺として周知されている。本遺跡の北側には４世紀末の築造と推定される前方後円墳である地蔵堂丸山古墳があり、また本遺跡の西側には、昭和56年度（1981年）、昭和60年度（1985年）の小学校の建て替え工事に伴う調査により５世紀後半～末にかけての円墳２基、方墳１基を検出している。

2006－25区の調査（図17・図版11）

本調査は、地蔵堂93－１、94－２において実施した。調査は、建築建物部分について調査区（10㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、第１層が盛土（層厚0.35m）、第２層は耕作土（層厚0.12～0.16m）、第３層は黄褐色粘土（層厚0.2～0.24m）、第４層は黄褐色粘土（層厚0.2～0.26m）、第５層は明黄褐色粘土（地山）である。

第３層、第４層は、中世の遺物包含層であり土師器、瓦器、瓦が出土している。地山上面で遺構検出を行なったが、地層堆積状況から判断して地面が削り取られており遺構は存在しないことが明らかとなった。（三浦）

12. 地蔵堂遺跡

地蔵堂遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置し、その範囲は前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺を包括する。地蔵堂丸山古墳は、平成14年度（2002年）の調査により墳丘に伴う葺石及び埴輪列を検出した。出土した円筒埴輪から古墳は４世紀末に築造されたと考えられる。本遺跡では、中・近世の耕地跡、中世の素掘り井戸等を検出している。

2006－45区の調査（図17・図版11）

本調査は、地蔵堂228の一部において実施した。調査は申請地内および浄化槽部分において２箇所の調査区（計16㎡）を設定して行った。

調査区１・２の層序は、第１層が盛土、第２層は撹乱、第３層は明黄褐色粘土（地山）であり、遺物包含層は検出できなかった。

撹乱は、以前に建てられていた建物に伴うものであり、調査区２では焼土を伴う撹乱を検出しており、これは土地の所有者によると風呂の焚き口にあたる。

調査区１・２においては地山面で遺構検出を行ったが、土地の削平を受けており遺構は確認できなった。（木嶋）

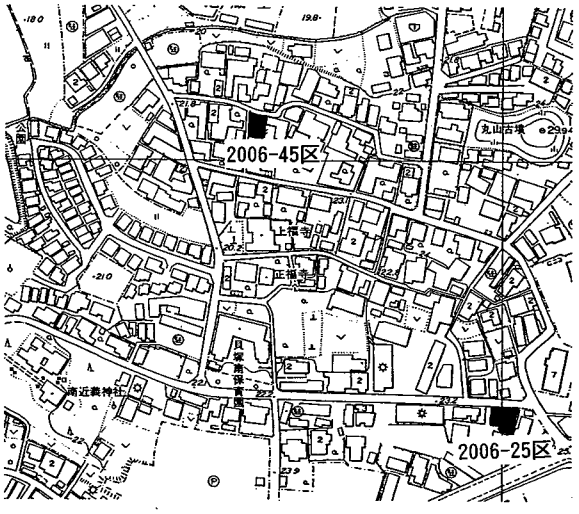
13. 堤西浦遺跡

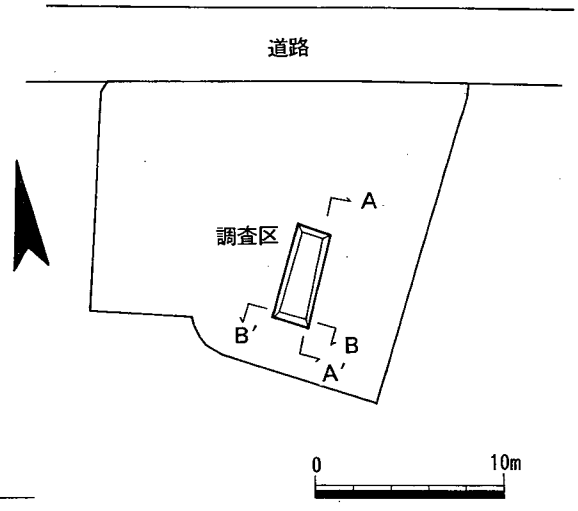
本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約18mに立地する。本遺跡は平成17年度に新規に遺跡登録しており、奈良時代・中世の集落跡と推定している。平成17年度（2006年）の試掘調査では、須恵器、土師器、瓦器が出土しており、古代と中世の遺物包含層を確認している。

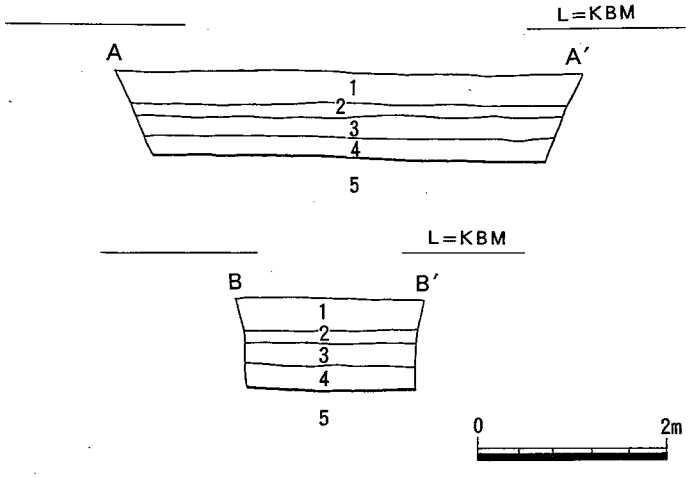
2005－62区の調査（図18・図版12）

本調査は、堤263－３の一部において実施した。調査は、申請建物の基礎部分において２箇所の調査区（計14.25㎡）を設定して行った。

調査区１・２の層序は、第１層が盛土・撹乱および旧耕土、第２層はにぶい黄橙色粘質土、第３層は明黄褐色

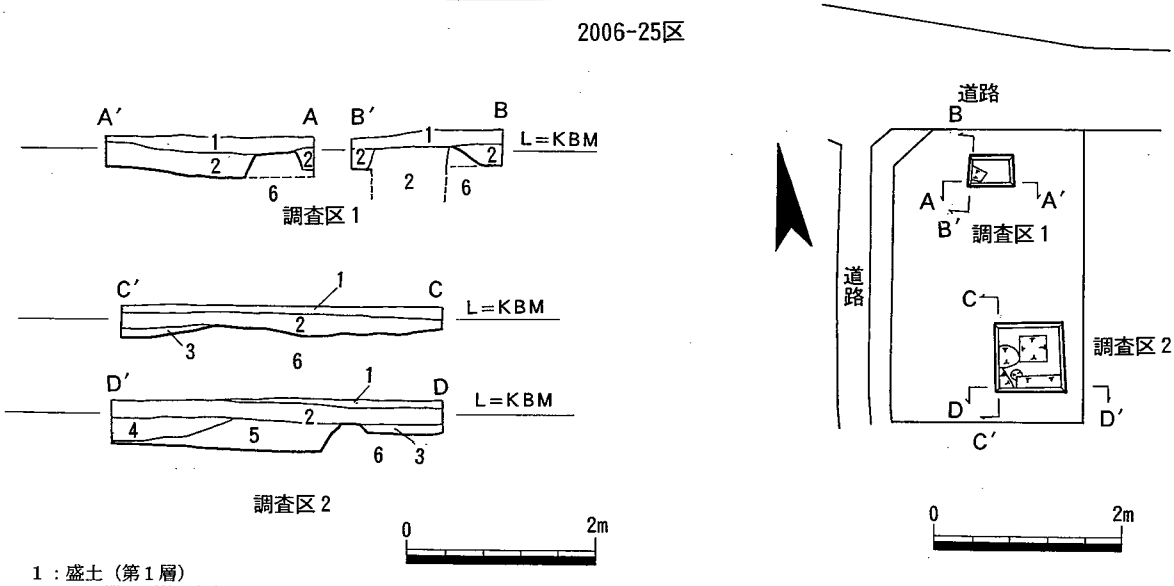






1：盛土
2：耕作土
3：2.5Y5/6 黄褐色粘土
4：2.5Y5/3 黄褐色粘土
5：2.5Y6/6 明黄褐色粘土（地山）

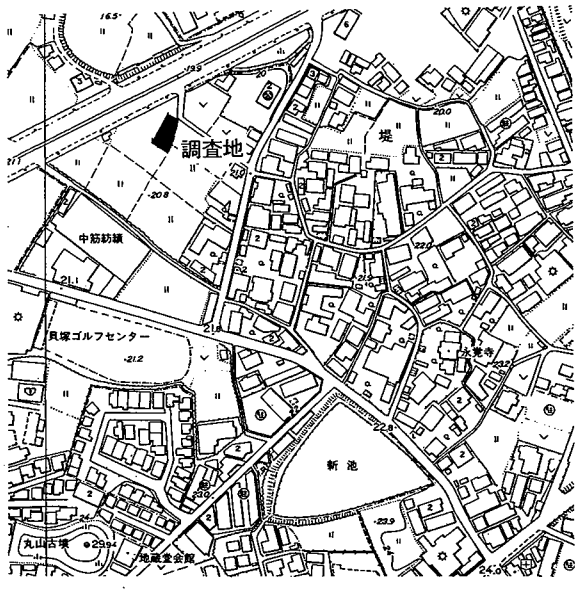
2006-25区

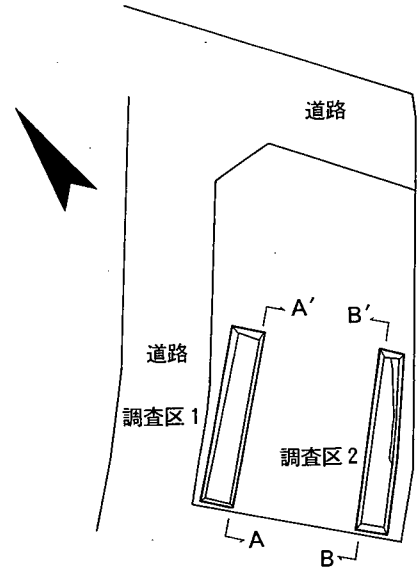


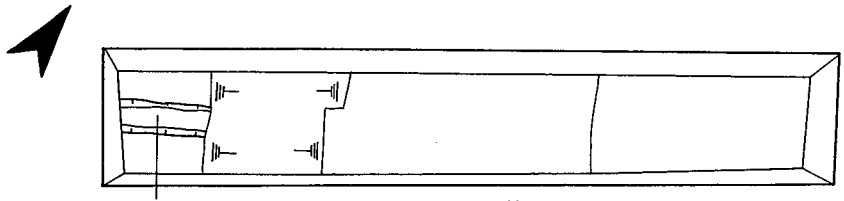
1：盛土（第1層）
2～5：撹乱（第2層）
6：10YR6/6 明黄褐色粘土（地山・第3層）

2006-45区

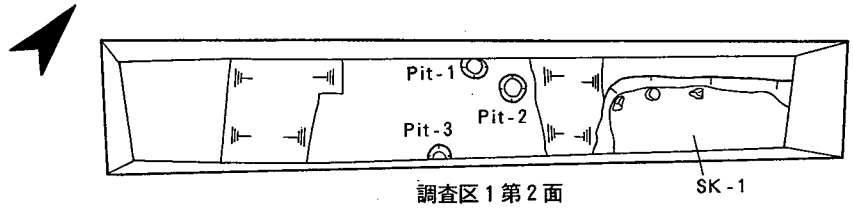
図17　2006 - 25区・2006 - 45区



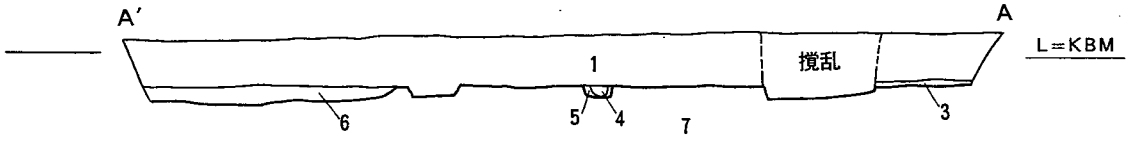


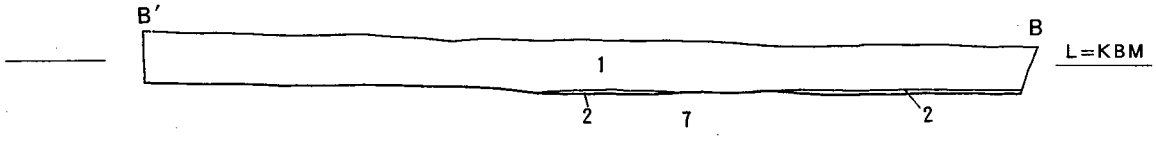


調査区1第1面



調査区1第2面





1：盛土・撹乱（第1層）
2：旧耕土（第1層）
3：10YR6/4 にぶい黄橙色粘質土（第2層）
4：2.5Y7/1 灰白色土（Pit－3）
5：2.5Y6/6 明黄褐色土混じり 2.5Y7/1 灰白色土（Pit－3）
6：10YR4/2 灰黄褐色粘質土（SK－1）
7：2.5Y7/6 明黄褐色粘質シルト～シルト（地山・第3層）

図18　2005－62区

粘質シルト～シルト（地山）である。

調査区１の第２層上面および地山面、調査区２の地山面において遺構検出を行った。調査区２ついては、土地の削平により遺構は確認できなかった。調査区１において第２層上面で鋤溝、地山面で小土坑、土坑を検出した。

第２層上面で検出した北東－南西方向の鋤溝は、埋土が黄灰色土であり、土師器、瓦器が出土している。第２層より土師器、瓦器が出土していることから、第２層と鋤溝は中世に属するものと考えられる。

調査区１中央部において小土坑３基（Pit－１～３）を検出した。小土坑の規模は、径約0.3m、深さ約0.1m、埋土は灰白色土である。遺物は Pit－３より土師器が出土している。これら小土坑は建物の柱穴の可能性がある。

調査区１の北部において土坑（SK－１）を検出した。SK－１の深さは0.2mであり、その範囲は調査区外に及ぶ。埋土は灰黄褐色粘質土であり、土師器が出土している。SK－１の性格については不明である。

調査区１の地山面で検出した遺構については、遺物の出土量が少ないため、時期は不明であるが、瓦器、土師器が出土している第２層との関係により、これらの遺構は中世以前に遡ると推測され、中世の耕地化以前に建物等が存在していた可能性がある。（木嶋）

14. 三ヶ山西遺跡

本遺跡は、近木川右岸に位置し、標高70mの段丘上に立地する。本市による平成11年度（1999年）の調査では、中世の遺物包含層より縄文土器が混在しており、調査区の周辺において縄文期の遺物包含層および遺構が存在している可能性が高い。また（財）大阪府埋蔵文化財協会（現：(財）大阪府文化財センター）の調査では、中世の掘立柱建物跡等の遺構が検出されている。

2006－14区の調査（図19・図版13）

本調査は、三ツ松1451－１の一部、1452において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（８㎡）を設定して行った。

調査区の層序については、１～８層は盛土および撹乱であり、遺物包含層は確認できなかった。遺物は出土していない。９層は黄褐色粘質シルト（地山）である。植木の根により地山面の検出が困難であったため、遺構検出は行っていない。調査区の断面観察等により土地は削平を受けているものと考えられる。

申請地周辺における調査事例では、中世の鋤溝等の遺構や遺物包含層を検出している。（木嶋）

15. 水間二ノ戸遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高71mに位置し、周知の遺跡として中世の集落跡と推定している。本遺跡の周辺には、三ヶ山西遺跡では、中世の掘立柱建物跡等の遺構や中世の遺物と混在して縄文土器が出土している。橘池遺跡では、中世の遺物包含層と鋤溝群等の中世の耕地跡を検出している。

2006－６区の調査（図20・図版14）

本調査は、水間164－１、165において実施した。調査は申請地の浄化槽部分において、調査区（7.5㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、１層が盛土（層厚0.6m）、２層は旧耕土（層厚0.2m）、３層はにぶい黄橙色土（層厚0.06m）、４層は灰黄褐色砂質土混じり褐灰色粘質シルト（層厚0.1m）、５層は褐灰色砂混じり粘質シルト（層厚0.08m）、６層は黄灰色砂混じりシルト（層厚0.1m）、７層は黄褐色粘土（地山）である。

４層～６層は遺物包含層と考えられ、４層より土師器、６層より土師器、瓦器が出土している。出土遺物により、これらの遺物包含層の時期は中世と考えられる。

４層上面、地山面において遺構検出を行ったが、湧水等により遺構は確認できなかった。

本遺跡周辺の三ヶ山西遺跡や橘池遺跡の調査事例において、中世の耕地跡を検出していることにより、本調査区で検出した遺物包含層は中世の耕地層であると推測される。（木嶋）

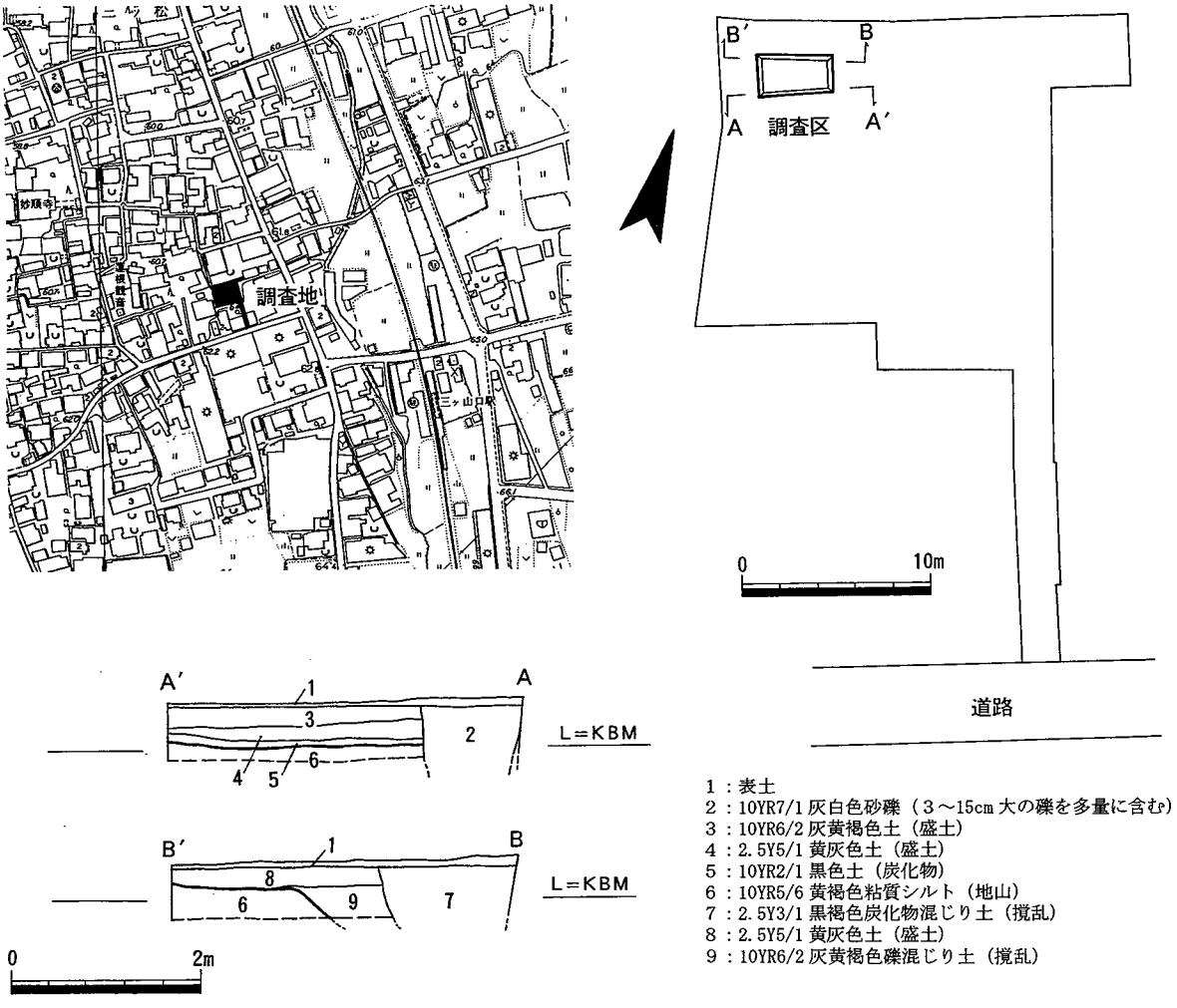


図19　2006－14区

2006－35区の調査（図20・図版15）

本調査は、水間250－1の一部、三ツ松758－2の一部において実施した。調査は、申請地内において2箇所の調査区（計14㎡）を設定して行った。

調査区1の層序は、1層が盛土・撹乱層（層厚0.25～0.3m）、2層は耕作土（層厚0.15～0.2m）、3層は暗灰黄色粗砂混じり土（層厚0.2～0.23m）、4層は暗灰黄色土・灰色土混じり土（層厚0.05～0.1m）、5層は灰黄褐色土（地山）である。

3層、4層は地層堆積状況から判断して、地層が削り取られた際の撹乱層・盛土と考えられる。地山上面で遺構検出を行ったが、地層が削り取られており遺物包含層、遺構は確認できなかった。

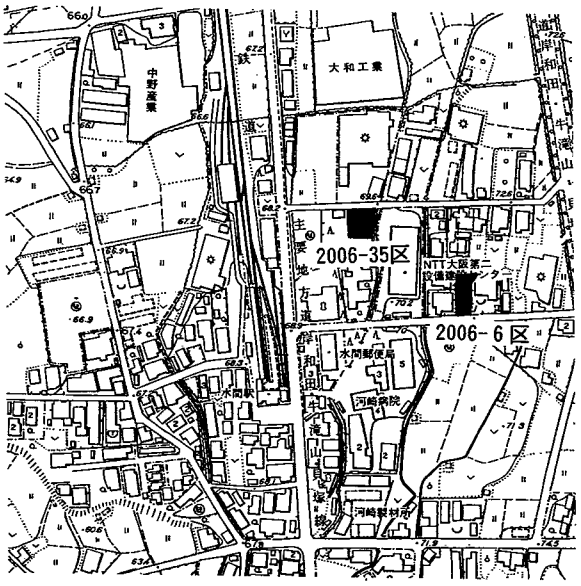
調査区2の層序は、1層が盛土・撹乱層（層厚0.3～0.4m）、3層は暗灰黄色粗砂混じり土（層厚0.2m）、5層は灰黄褐色土（地山）である。

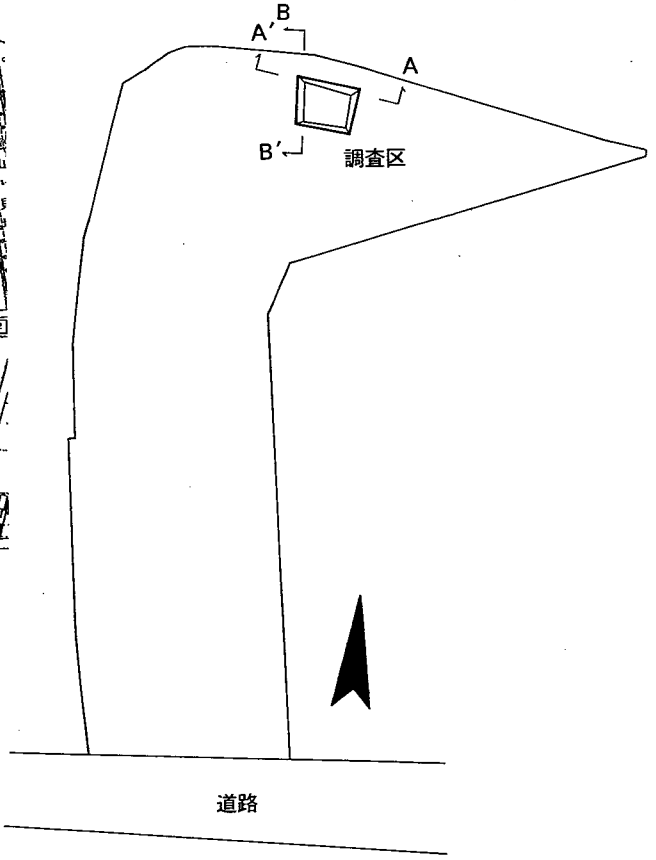
3層は、調査区1同様に地層が削り取られた際の撹乱層・盛土と考えられる。地山上面で遺構検出を行ったが、地層が削り取られており、遺物包含層、遺構は確認できなかった。（三浦）

2005－61区の調査（図21・図版13）

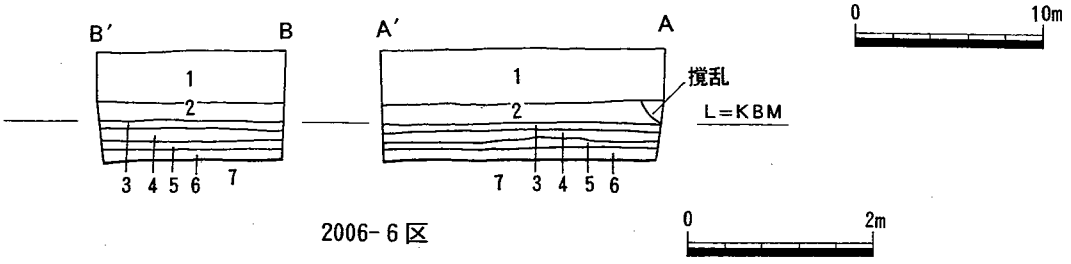
本調査は、水間239－1において実施した。調査は、申請地内において調査区（9㎡）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土および撹乱（層厚0.5m）、2層は灰白色土（層厚0.2m）、3層は灰黄色粘質土

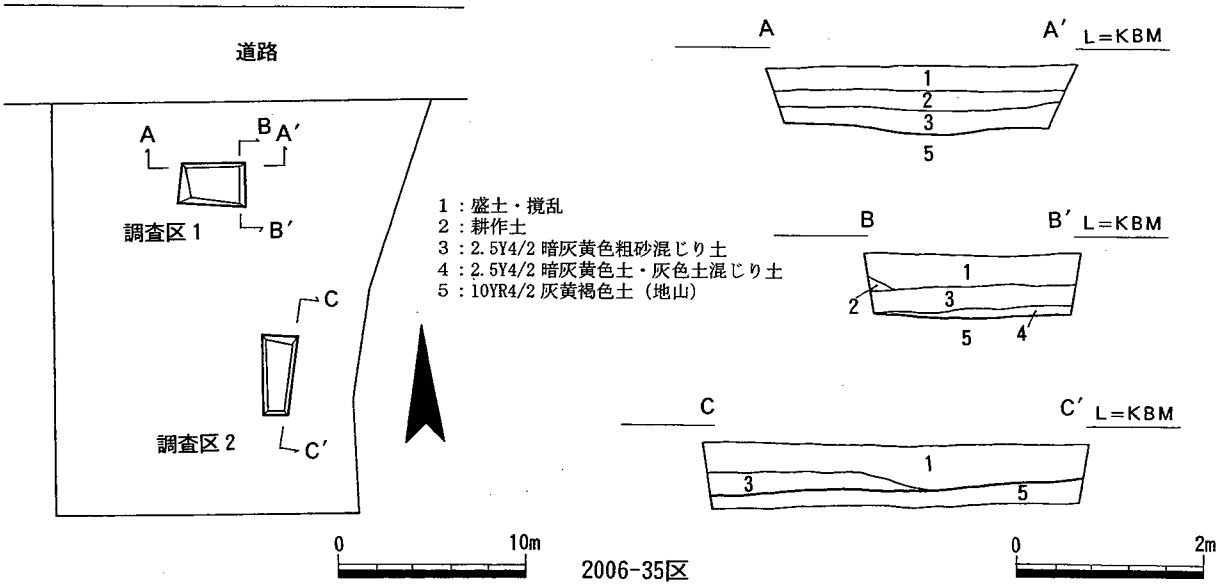




1：盛土
2：旧耕土
3：10YR6/3 にぶい黄橙色土
4：10YR6/2 灰黄褐色砂質土混じり 10YR6/1 褐灰色粘質シルト
5：10YR6/1 褐灰色砂混じり粘質シルト
6：2.5Y5/1 黄灰色砂混じりシルト（マンガンが沈着する）
7：10YR5/6 黄褐色粘土（地山）



2006-6区



1：盛土・撹乱
2：耕作土
3：2.5Y4/2 暗灰黄色粗砂混じり土
4：2.5Y4/2 暗灰黄色土・灰色土混じり土
5：10YR4/2 灰黄褐色土（地山）

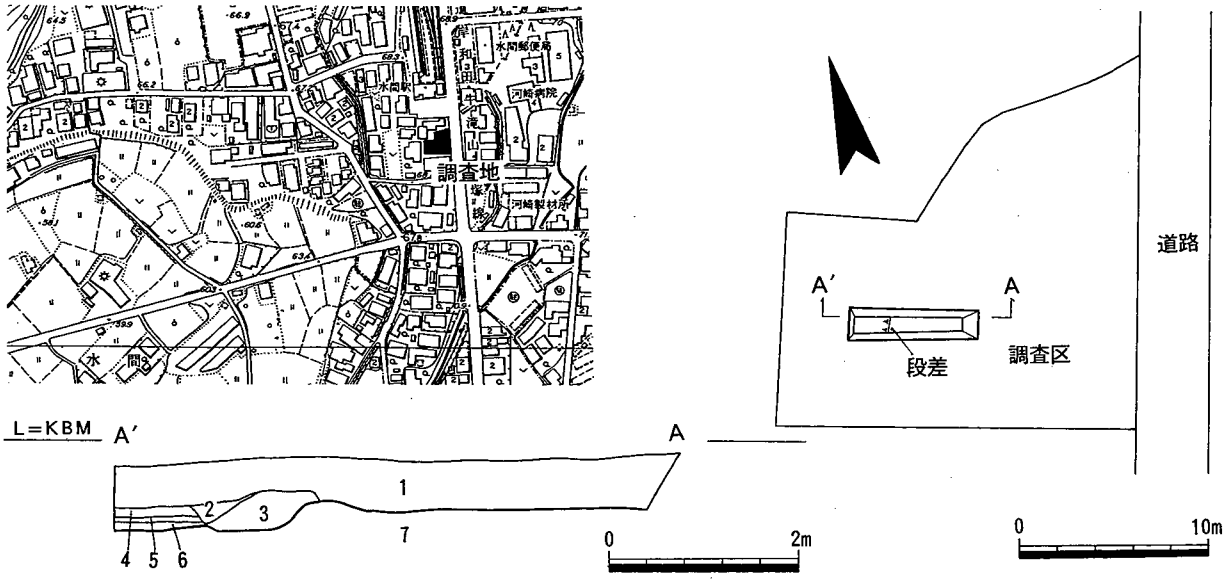
2006-35区

図20　2006－6区・2006－35区

（層厚0.4m）、４層は灰白色土（層厚0.1m）、５層は黄褐色土（層厚0.05m）、６層は灰オリーブ色細礫混じり粘質土（層厚0.08m）、７層はにぶい黄褐色礫（地山）である。

調査区の西端部において４～６層を検出し、土層等の観察により、これらは旧耕土層と考えられる。４～６層より遺物は出土していない。２・３層については、調査区の壁面観察や申請地の地形が西方向へ一段下がっていることにより、段差が存在していたと推測される。また調査区の掘削中に15cm 大の河原石を数点確認していることにより、この段差には石組等が設けられていた可能性がある。

地山面において遺構検出を行ったが、土地の削平等を受けているため、遺構は確認できなかった。　（木嶋）



1：盛土、撹乱
2：5Y7/1 灰白色土
3：2.5Y6/2 灰黄色粘質土
4：2.5Y7/1 灰白色土
5：10YR5/6 黄褐色土
6：5Y5/2 灰オリーブ色細礫混じり粘質土
7：10YR5/3 にぶい黄褐色礫（地山・10～15cm 大の礫を含む）

図21　2005－61区

第３章　平成元年・平成２年の調査

国庫補助事業による平成元年・平成２年の発掘調査について、概要報告書より一部抜け落ちた調査分があり、改めてここに一覧と位置図を掲載する。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地	報告済（○）
	（平成元年）				
1	沢城跡	第１調査区	SJ	浦田75－１	
2	明楽寺跡	第２調査区	MRJ	沢536－４	
3	地蔵堂遺跡	第３調査区	GZZ	地蔵堂1221	
4	貝塚寺内町遺跡	第４調査区	JN	近木985	
5	沢遺跡	第５調査区	S	沢533	○
6	沢遺跡	第６調査区	S	沢717－１	○
7	石才南遺跡	第７調査区	ISS	麻生中498他	
8	貝塚寺内町遺跡	第８調査区	JN	北町258	
9	清児遺跡	第９調査区	SG	麻生中65	
	（平成２年）				
10	土生遺跡	第１調査区	HB	久保507－４	
11	地蔵堂廃寺	第２調査区	GZZH	地蔵堂92－２	○
12	加治・神前・畠中遺跡	第３調査区	KKH	畠中１－188－２	
13	地蔵堂遺跡	第４調査区	GZZ	地蔵堂288－３、287－２	○
14	加治・神前・畠中遺跡	第５調査区	KKH	畠中１－204－２	○
15	加治・神前・畠中遺跡	第６調査区	KKH	海塚３－373	○
16	名越遺跡	第７調査区	NG	清児523－１	
17	土生遺跡	第８調査区	HB	久保512	

表２　平成元年、平成２年国庫補助事業一覧

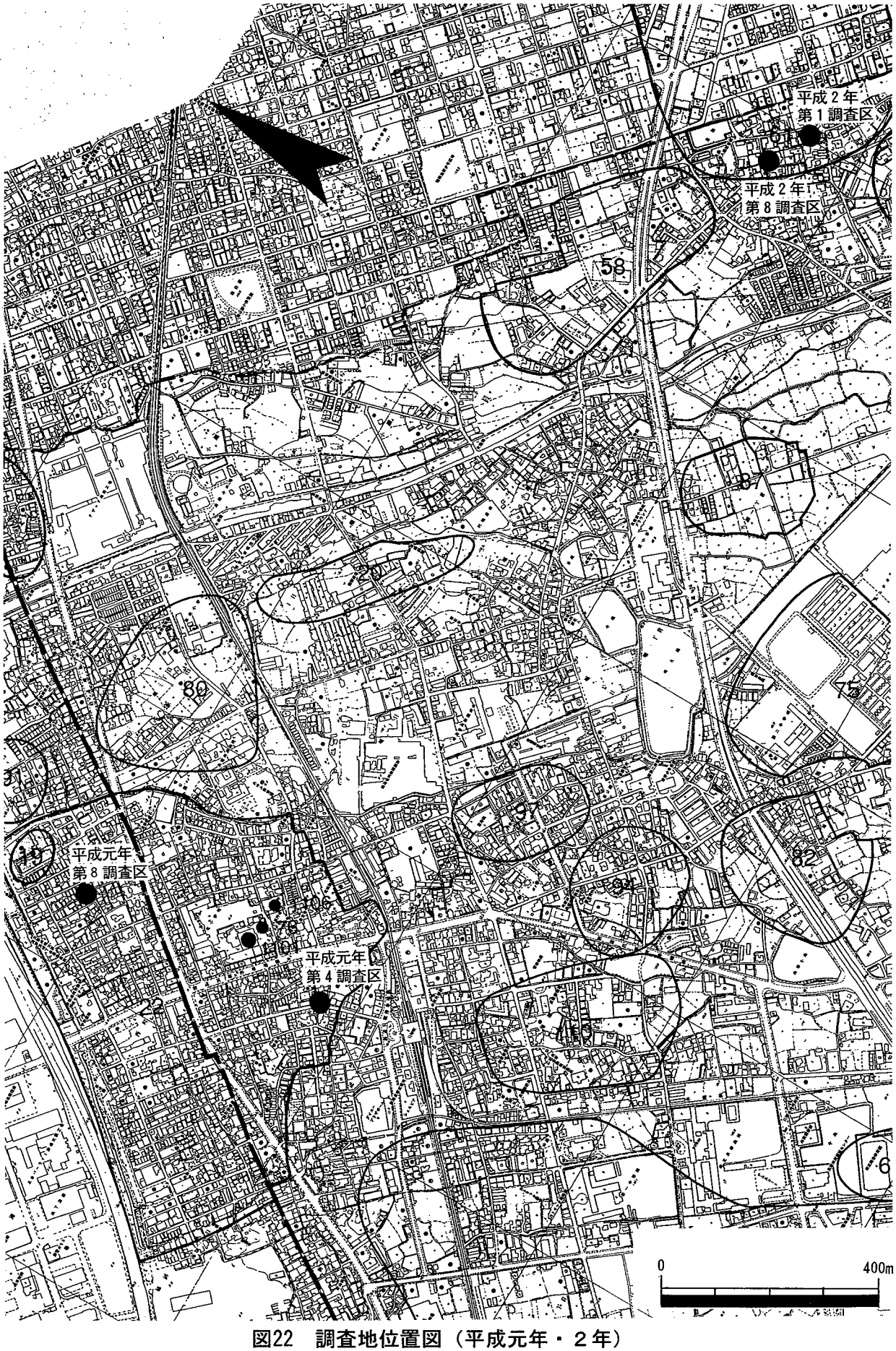


図22　調査地位置図（平成元年・２年）

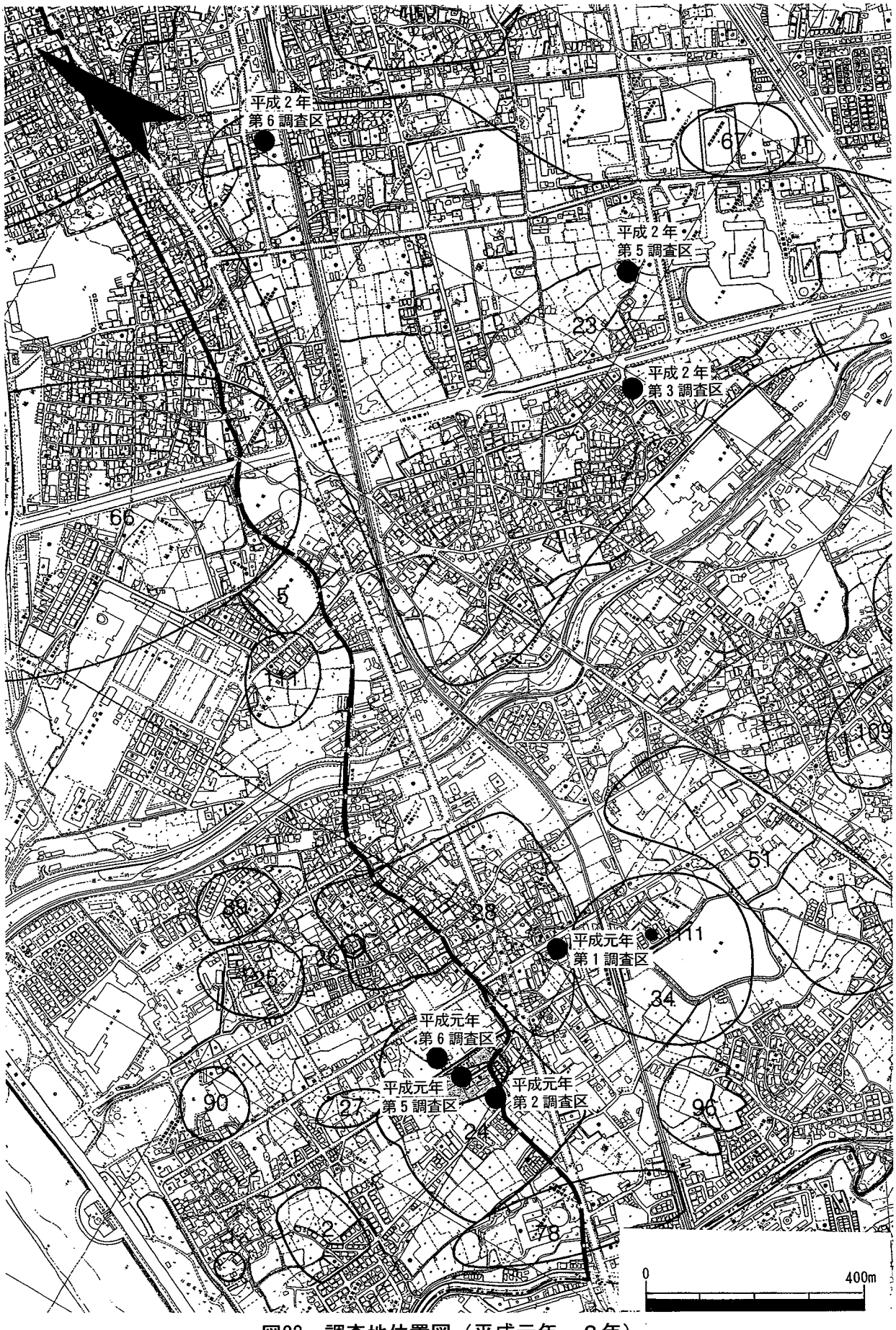


図23　調査地位置図（平成元年・２年）

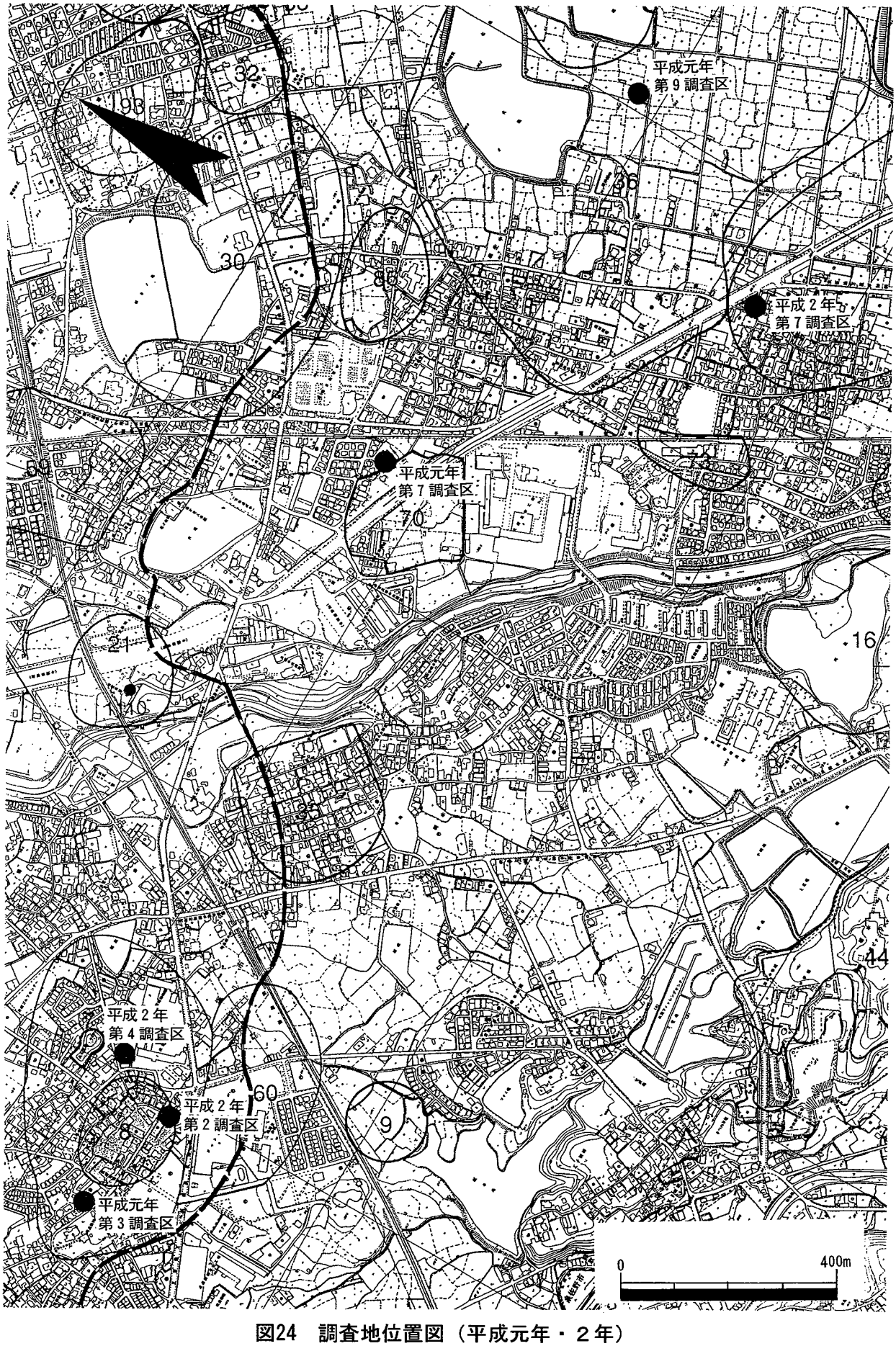


図24　調査地位置図（平成元年・２年）

報告書抄録	
ふりがな	かいづかしいせきぐんはっくつちょうさがいよう
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要
副書名	
巻次	29
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第71集
編著者名	三浦基　木嶋崇晴
編集機関	貝塚市教育委員会
所在地	〒597-8585　大阪府貝塚市畠中1-17-1　℡072-423-2151
発行年月日	西暦2007年3月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
くぼいせき 久保遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 くぼ 久保	27208	103	34度26分44秒	135度22分37秒	2006 0106	6.75	兼用住宅
とどのいけいせき 澱池遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	34	34度25分53秒	135度20分49秒	2006 0116～0117	3.75	個人住宅
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みずま 水間	27208	108	34度24分10秒	135度23分7秒	2006 0120	9	兼用住宅
つつみにしうらいせき 堤西浦遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 つつみ 堤	27208	123	34度25分51秒	135度21分21秒	2006 0126～0127	14.25	兼用住宅
さわじょうあと 沢城跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分5秒	135度20分36秒	2006 0206～0210	32.5	個人住宅
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みずま 水間	27208	108	34度24分15秒	135度23分13秒	2006 0427 ～0428	7.5	個人住宅
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分28秒	135度23分0秒	2006 0525～0526	8	個人住宅
にい・とばきたいせき 新井・鳥羽北遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 にい 新井	27208	75	34分26分30秒	135度21分59秒	2006 0627～0628	19	個人住宅
はぶいせき 土生遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 くぼ 久保	27208	61	34度26分53秒	135度22分37秒	2006 0630	7	個人住宅
さわにしいせき 沢西遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	78	34度25分49秒	135度20分28秒	2006 0704	4.5	個人住宅
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	8	34度25分36秒	135度21分17秒	2006 0713～0714	10	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分42秒	135度22分4秒	2006 0724～0725	4	個人住宅
つだいせき 津田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 つだみなみまち 津田南町	27208	80	34度27分8秒	135度21分43秒	2006 0821～0822	6.5	個人住宅
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 みずま、みつまつ 水間、三ツ松	27208	108	34度24分16秒	135度23分11秒	2006 0824～0825	14	個人住宅
はんだいせき 半田遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	31	34度26分9秒	135度22分29秒	2006 0829～0830	4.5	個人住宅

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード 市町村	遺跡番号	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さわじょうあと 沢城跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分 6秒	135度20 分43秒	2006 0919～0920	4.8	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34度25分 43秒	135度21 分11秒	2006 1016～1017	16	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 うみづか 海塚	27208	23	34度26分 33秒	135度21 分23秒	2006 1113	7.5	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	おおさかふ かいづかし 大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	70	34度25分 44秒	135度22 分0秒	2006 1219	6	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
くぼいせき 久保遺跡	集落跡				
とどのいけいせき 澱池遺跡	集落跡	中世	溝		
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	集落跡				
つつみにしうらいせき 堤西浦遺跡	集落跡	中世	鋤溝、小土坑、土坑		
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	柱穴、溝状遺構		
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
みかやまにしいせき 三ケ山西遺跡	散布地				
にい・とばきたいせき 新井・鳥羽北遺跡	集落跡	中世	溝、鋤溝	瓦器、須恵質土器	
はぶいせき 土生遺跡	集落跡	中世	溝状遺構	土師器	
さわにしいせき 沢西遺跡	集落跡	中世	溝、鋤溝	土師器、瓦器、陶器	
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	古墳、集落跡、 寺院跡	古墳時代～室町時代		土師器、瓦器、瓦	
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	集落跡	弥生時代～古墳時代	流路	瓦器	
つだいせき 津田遺跡	集落跡、窯跡	中世～近世			
みずまにのといせき 水間二ノ戸遺跡	集落跡	中世			
はんだいせき 半田遺跡	集落跡	中世			
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世、戦国時代			
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、 寺院跡	古墳時代～室町時代			
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡	弥生時代～室町時代			
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	集落跡	古墳時代、中世	土坑	土師器、瓦器、須恵器	

平成元年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
さわじょうあと 沢城跡	大阪府貝塚市 浦田	27208	28	34度25分 59秒	135度20分 40秒	1989 0417～0421	40	個人住宅
みょうらくじあと 明楽寺跡	大阪府貝塚市 沢	27208	24	34度25分 58秒	135度20分 28秒	1989 0509～0519	40	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	72	34度25分 38秒	135度21分 10秒	1989 0619	10	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 近木	27208	22	34度26分 48秒	135度21分 26秒	1989 0706	50	個人住宅
さわいせき 沢遺跡	大阪府貝塚市 沢	27208	3	34度26分0 秒	135度20分 28秒	1989 0724～0804	42	個人住宅
さわいせき 沢遺跡	大阪府貝塚市 沢	27208	3	34度26分2 秒	135度20分 29秒	1989 0904～0921	90	個人住宅
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	70	34度25分 44秒	135度22分 7秒	1989 0926～1007	30	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34分27分3 秒	135度21分 22秒	1989 1018～1021	22	個人住宅
せちごいせき 清児遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	36	34度25分 43秒	135度22分 38秒	1989 1030～1104	11	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	溝6条、柱穴群、性格不明遺構	瓦器椀・小皿、土師器小皿、須恵器甕	
みょうらくじあと 明楽寺跡	寺院跡	中世	溝1条	瓦器椀・小皿、須恵器鉢、瓦	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	集落跡			土師器、瓦	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡			陶磁器、瓦	
さわいせき 沢遺跡	集落跡		溝1条、柱穴群	須恵器杯、黒色土器椀、瓦器椀・小皿、土師器、瓦	
さわいせき 沢遺跡	集落跡		溝、土坑、性格不明遺構、柱穴群	土師質土器、陶磁器、古銭、瓦、土師器、瓦器	
いしざいみなみいせき 石才南遺跡	集落跡		溝、土坑、性格不明遺構		
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世～近代	溝、埋甕	須恵器蛸壺、土師質土錘、陶磁器、窯道具、瓦	
せちごいせき 清児遺跡	散布地			瓦器椀、土師器、須恵器	

平成２年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
はぶいせき 土生遺跡	大阪府貝塚市 久保	27208	61	34度26分 47秒	135度22分 40秒	1990 0709～0710	15	個人住宅
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	8	34度25分 36秒	135度21分 17秒	1990 0719～0724	15	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 畠中	27208	23	34度26分 10秒	135度21分 11秒	1990 0828～0914	30	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	72	34度25分 40秒	135度21分 19秒	1990 0926～1005	42	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 畠中	27208	23	34度26分 16秒	135度21分 22秒	1990 1015～1023	10	個人住宅
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 海塚	27208	23	34度26分 38秒	135度21分 18秒	1990 1101～1115	20	個人住宅
なごせいせき 名越遺跡	大阪府貝塚市 清児	27208	71	34度25分 31秒	135度22分 29秒	1991 0212～0219	60	個人住宅
はぶいせき 土生遺跡	大阪府貝塚市 久保	27208	61	34度26分 52秒	135度22分 33秒	1991 0221～0225	40	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
はぶいせき 土生遺跡	集落跡	弥生時代	溝1条	弥生土器（長頸壺・高杯）	
じぞうどうはいじ 地蔵堂廃寺	寺院跡	中世	溝1条	瓦器椀・小皿、土師器小皿、瓦質鉢、瓦	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡		溝2条、ピット	瓦器、土師器	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡		性格不明遺構、柱穴	土師器甕	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	集落跡		溝2条、ピット3基	土師器、須恵器、瓦器	
かじ・こうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡			溝1条	土師器、瓦器	
なごせいせき 名越遺跡	散布地		溝3条、ピット2基、性格不明遺構	土師器、須恵器、瓦器	
はぶいせき 土生遺跡	集落跡			土師器、須恵器、瓦器	

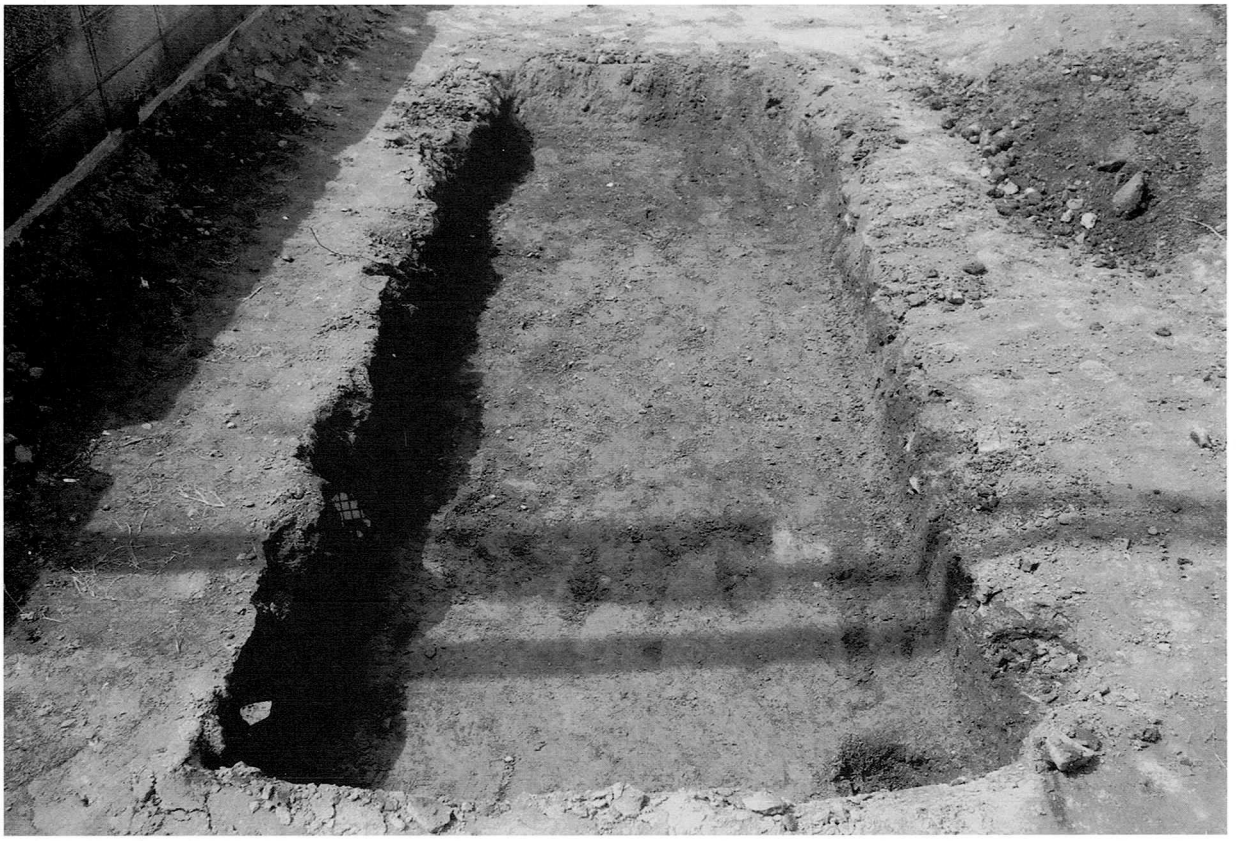
図　　版

図版1　久保遺跡（2005-56区）・土生遺跡（2006-21区）

1. 2005-56区 完掘状況　（西より）

2. 2006-21区 調査区1 完掘状況　（東より）

図版2　津田遺跡（2006-34区）・加治・神前・畠中遺跡（2006-50区）



1. 2006-34区 完掘状況　（北より）

2. 2006-50区 完掘状況　（北より）

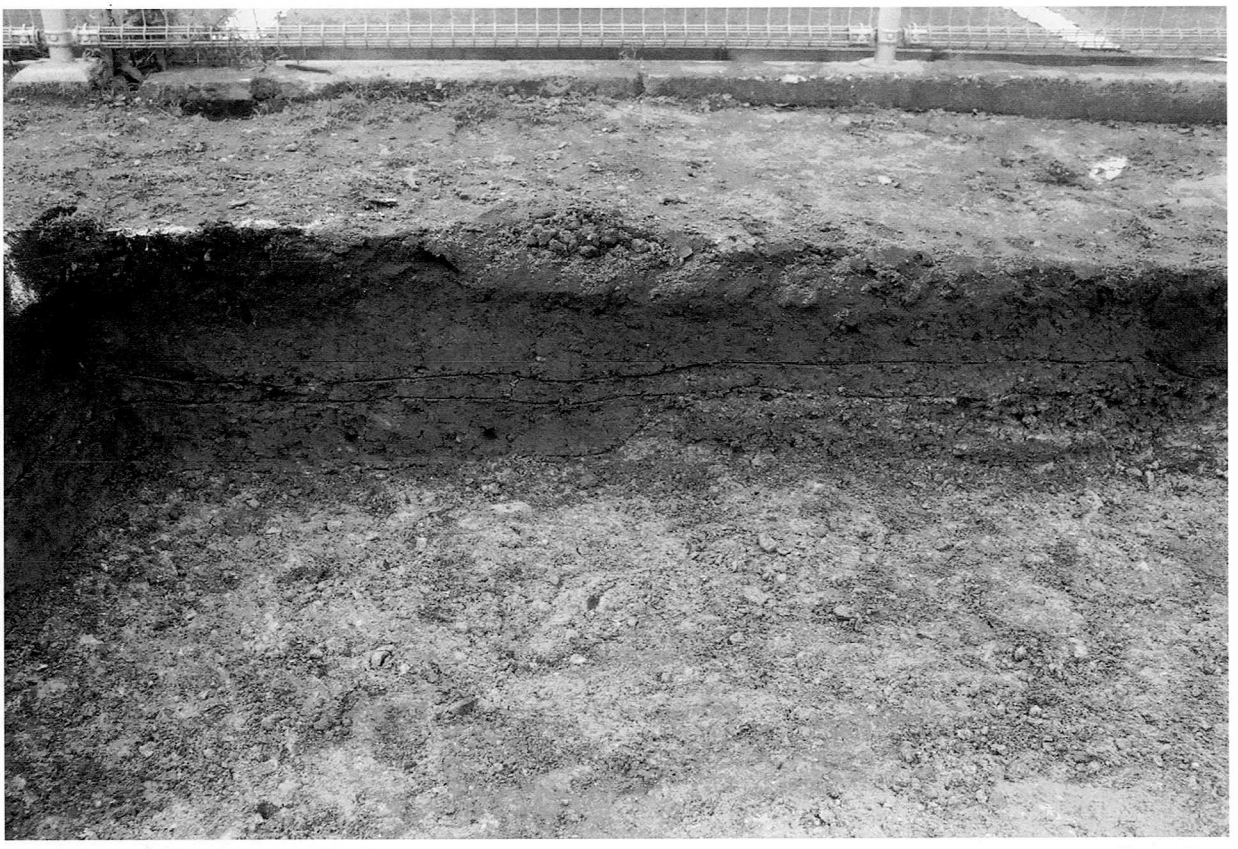
図版3　沢城跡（2005-66区）

1. 2005-66区 完掘状況　（南より）

2. 2005-66区 調査区東壁断面　（西より）

図版4　沢城跡（2006-40区）

1. 2006-40区 完掘状況　（東より）



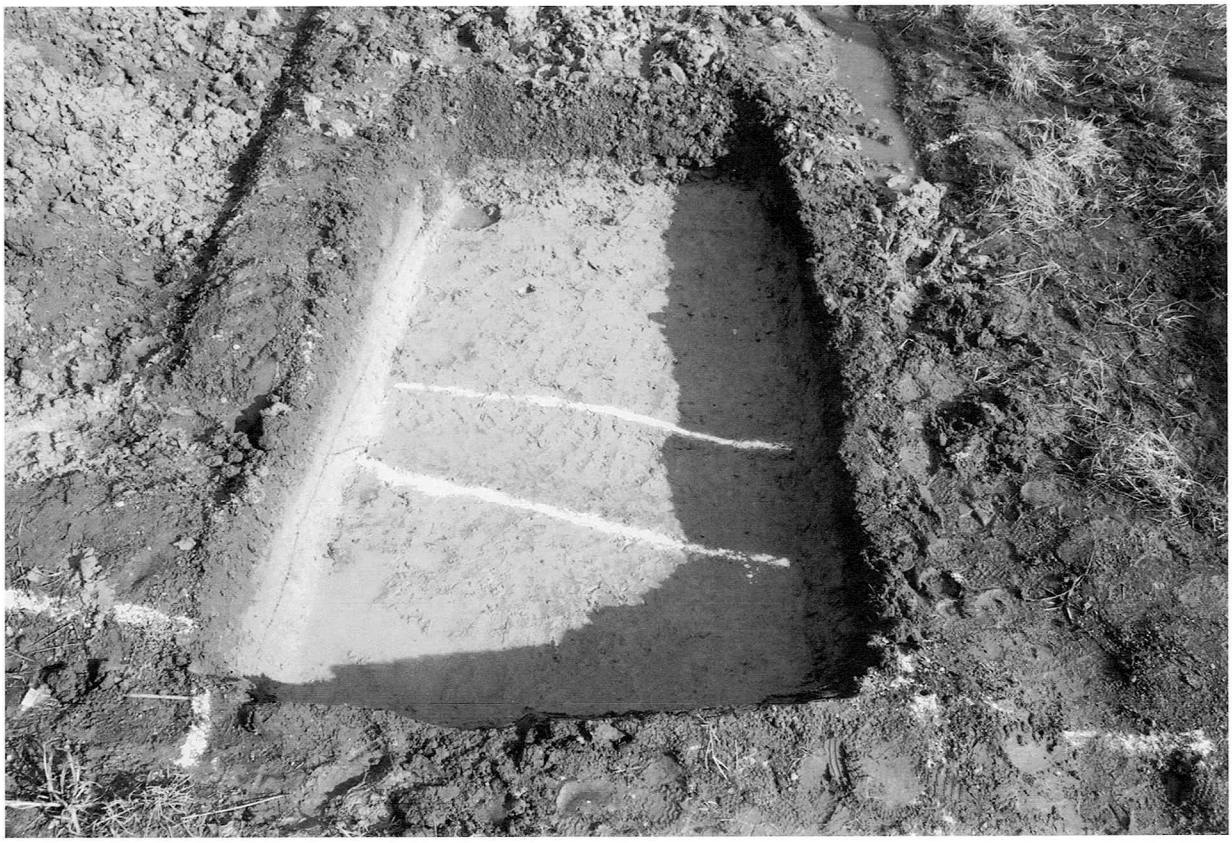
2. 2006-40区 調査区南壁断面　（北より）

図版5　沢西遺跡（2006-23区）

1. 2006-23区 完掘状況　（西より）

2. 2006-23区 調査区西壁断面　（東より）

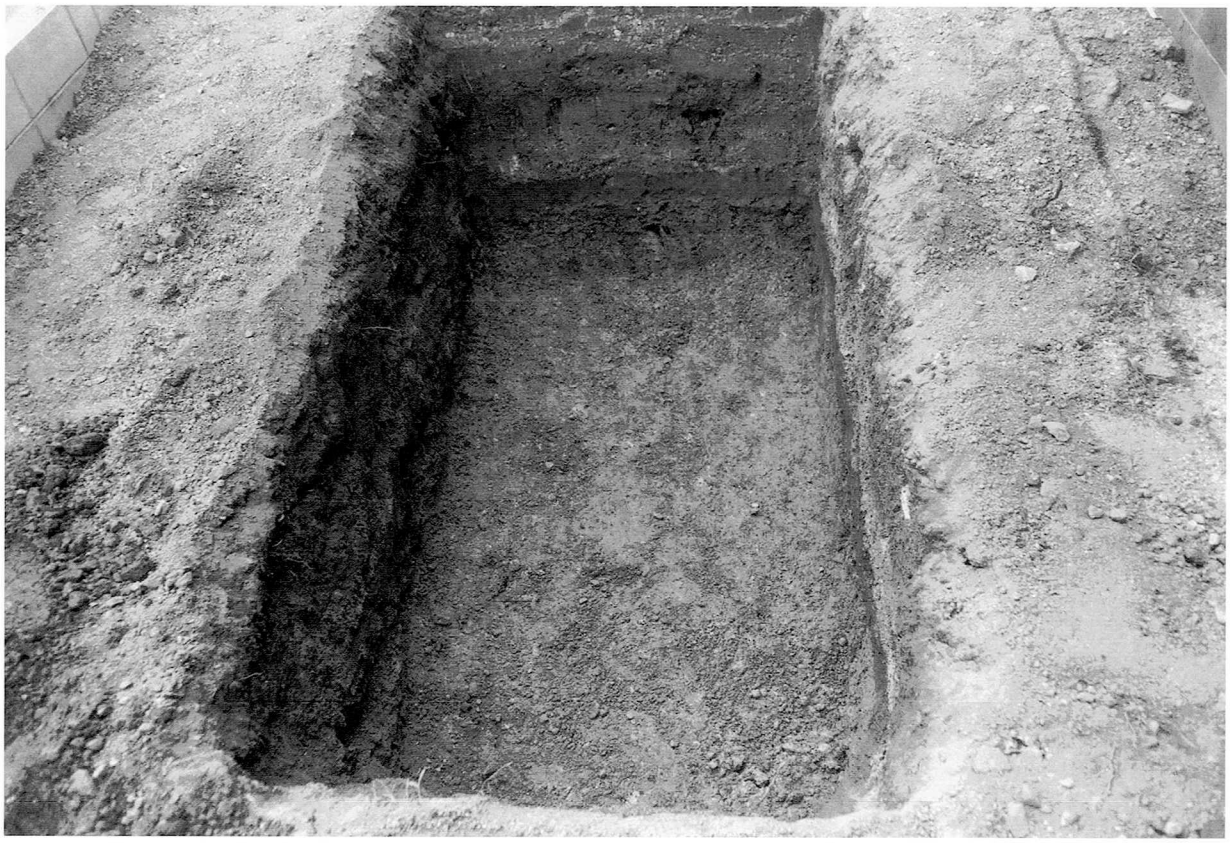
図版6　澱池遺跡（2005-59区）



1. 2005-59区 完掘状況　（南より）

2. 2005-59区 調査区西壁断面　（東より）

図版7　半田遺跡（2006-37区）



1. 2006-37区 完掘状況　（南より）

2. 2006-37区 調査区西壁断面　（東より）

図版8　新井・鳥羽北遺跡（2006-19区）

1. 2006-19区 完掘状況　（南より）

2. 2006-19区 調査区西壁断面　（東より）

図版9　石才南遺跡（2006-27区）

1. 2006-27区 完掘状況　（北より）

2. 2006-27区 調査区西壁断面　（東より）

図版10　石才南遺跡（2006-57区）

1. 2006-57区 完掘状況　（東より）

2. 2006-57区 調査区南壁断面　（北より）

図版11　地蔵堂廃寺（2006-25区）・地蔵堂遺跡（2006-45区）

1. 2006-25区 完掘状況　（北より）

2. 2006-45区 調査区1完掘状況　（東より）

図版12　堤西浦遺跡（2005-62区）

1. 2005-62区 調査区1第1面鋤溝完掘状況　（北より）

2. 2005-62区 調査区1第2面完掘状況　（東より）

図版13　三ヶ山西遺跡（2006-14区）・水間二ノ戸遺跡（2005-61区）

1. 2006-14区 完掘状況　（東より）

2. 2005-61区 完掘状況　（東より）

図版14　水間二ノ戸遺跡（2006-6区）

1. 2006-６区 完掘状況　（東より）

2. 2006-６区 調査区北壁断面　（南より）

図版15　水間二ノ戸遺跡（2006-35区）

1. 2006-35区 調査区1完掘状況　（西より）

2. 2006-35区 調査区1北壁断面　（南より）

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告　第71集

貝塚市遺跡群発掘調査概要 29

発　行　日　平成19年(2007) 3月30日

編集・発行　貝塚市教育委員会
大阪府貝塚市畠中１丁目17番１号

印　　刷　㈲春木印刷所
岸和田市下野町２丁目２番８号